

2025 年 3 月

食料安全保障月報

(第 45 号)



令和 7 年 3 月 31 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2025 年 3 月食料安全保障月報（第 45 号）

目 次

概要編

I	2025 年 3 月の主な動き	1
II	2025 年 3 月の穀物等の国際価格の動向	4
III	2024/25 年度の穀物需給（予測）のポイント	4
IV	2024/25 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	4
V	今月の注目情報「米国の 2025/26 年度の生産・輸出動向」	5

（資料）

1－1～3	穀物等の主要輸出国の生産量（過去 10 年平均との増減比較）	9
1－4	穀物等の国際価格の動向	1 2
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	1 3
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	1 4
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	1 6
5	食品小売価格の動向	2 0
6	海外の畜産物の需給動向（ALIC 提供）	2 1
7	FAO 食料価格指数	2 3

今月のコラム

「インドネシアの食料事情①：食文化（インドネシア料理）」	2 4
------------------------------	-----

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	2024/25 年度の輸出量は前月から下方修正され 22.7 百万トンの見込み
	＜カナダ＞	2025/26 年度の作付意向面積は前年度から 2.6%増加の見込み（カナダ統計局）
	＜豪州＞	2024/25 年度の生産量は上方修正され 34.1 百万トンの見込み（ABARES）
	＜EU27＞	2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 119.0 百万トンの見込み（EC）
	＜ロシア＞	2024/25 年度の輸出量は前月から下方修正され 45.0 百万トンの見込み
	＜ウクライナ＞	2024/25 年度の生産量は前月から上方修正され 23.4 百万トンの見込み
	＜中国＞	2024/25 年度の輸入量は前月から下方修正され 6.5 百万トンの見込み

2	とうもろこし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	＜米国＞ 2024/25 年度の生産量は史上最高の前年度から 3.1%減少する見込み	
	＜ブラジル＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 5.9%増加する見込み	
	＜アルゼンチン＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%減少する見込み	
	＜ウクライナ＞2024/25 年度の生産量は、前年度より 17.5%減少する見込み	
	＜中国＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.1%増加する見込み	
3	コメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
	＜タイ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み	
	＜米国＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.9%増加する見込み	
	＜中国＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み	
	＜インド＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 5.2%増加する見込み	
	＜ベトナム＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.8%増加する見込み	
II	油糧種子	
	大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
	＜米国＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 4.9%増加する見込み	
	＜ブラジル＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 10.5%増加する見込み	
	＜カナダ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 8.4%増加する見込み (AAFC)	
	＜中国＞ 2024/25 年度の生産量は、史上最高の前年度から 0.9%減少する見込み	
	＜アルゼンチン＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.6%増加する見込み	
	(参考1) 本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2024/25 年度)・・・	27
	(参考2) 単位換算表・・・・・・・・・・・・・・・・	27
	(参考3) 各国のクロップカレンダー一覧 (主要品目毎) ・・・・・・・・	28

【利用上の注意】

表紙写真：豪州 ニューサウスウェールズ州リヴァリーナのモーラメン近郊で栽培される稲。順調に生育しており、高い収量が期待されている。(ニューサウスウェールズ州 2025 年 2 月 28 日)

(概要編)

I 2025 年 3 月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の 2024/25 年度の作況について、北半球での収穫が終了した一方、南半球では、豪州で小麦の収穫が終了、南米で大豆等が収穫期を迎えている。

2024/25 年度の状況について、品目別にみると、3 月の米国農務省 (USDA) の需給報告によれば、小麦については、EU、ロシア、英国で単収・収穫面積ともに前年度より減少するものの、豪州、米国、インド、アルゼンチンで単収・収穫面積ともに増加、カザフスタン、中国、カナダで単収が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022 年 3 月に史上最高を更新した小麦の国際相場は侵攻時の水準を下回ったものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する 4 者合意(黒海穀物イニシアティブ)については 2023 年 7 月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EU 向け輸出の動向も含め注視が必要。

とうもろこしについては、ブラジル、中国、南アフリカで単収・収穫面積ともに前年度より増加するものの、米国で収穫面積が減少、ウクライナで単収・収穫面積ともに減少、EU、ロシアで単収が減少すること等から、世界全体の生産量は前年度を下回る見通し。

大豆については、ブラジル、米国で単収・収穫面積ともに増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視が必要。

FAO (国連食糧農業機関) が公表している食料価格指数については、主に砂糖、乳製品、植物油の価格の上昇等により、1 月の 125.1 から、2 月(最新値)は 127.1 に上昇 (参考: 2024 年 2 月 117.4、2023 年 2 月 130.7、2022 年 2 月 141.7、2021 年 2 月 116.5、2020 年 2 月 99.6)。海上運賃については、バルチック海運指数 (穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数) が、直近 5 カ年の平均値の約 9 割の水準で推移。

早期注意段階の継続について

緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、2021 年 7 月に、主要輸入農産物の国際価格や海上運賃の上昇、国際的な物流の遅れ等の当時の状況を踏まえて適用。2025 年 3 月も引き続き適用した一方で、主要穀物等の国際相場や海上運賃についてはここ最近下落傾向で推移しており、引き続きその動向に留意。

【参考】早期注意段階について (農林水産省HP)

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



ウクライナの生産・輸出動向

USDA の 3 月需給報告によれば、2024/25 年度の小麦の生産量は、単収が減少するものの収穫面積は増加することから、前年度より 1.7%増加し 2,340 万トンとなる見込み。また、とうもろこしの生産量は、収穫面積・単収ともに減少することから、前年度より 18%減少し 2,680 万トンとなる見込み。2024/25 年度の小麦の輸出量は、生産量及び期首在庫の減少を受け、前年度より 17%減少し 1,550 万トンとなる見込み。とうもろこしの輸出量も前年度より 25%減少し 2,200 万トンとなる見込み。

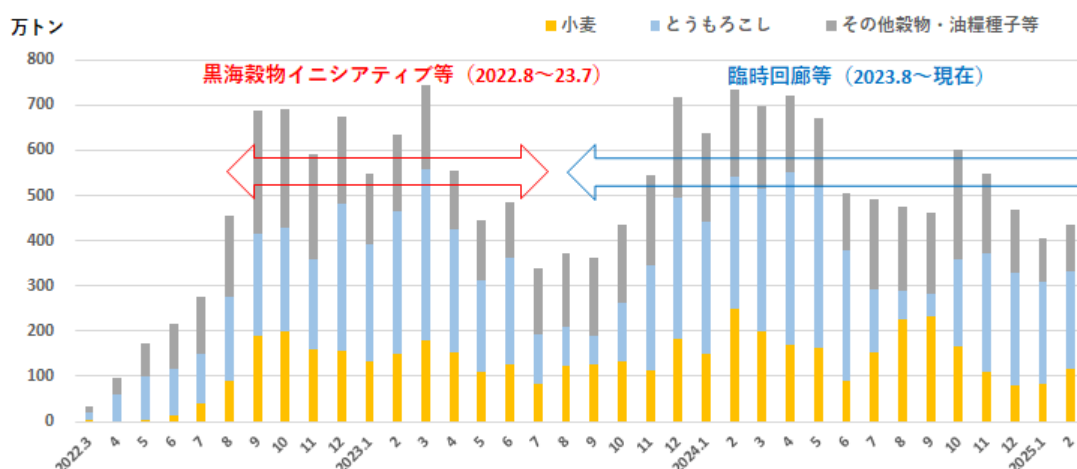
ウクライナ農業政策食料省によれば、2024/25 年度の小麦及びとうもろこしの収穫作業は終了した。また、2025/26 年度の冬小麦の作付作業も終了している。ウクライナ気象センターによれば、2 月初めの数日は温暖な天候だったが、以降は欧州北部からの寒気により平年より寒冷な天候となった。雪やみぞれが降った地域もあったが、降水量は全国的に不足状態である。地中温度の低下は－7℃程度に保たれており、気象条件としては問題なし。一部の圃場では 5～8%の枯死が発生する可能性がある。

臨時回廊からの輸出状況

2022年7月22日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年8月以降、オデーサ港等3港（オデーサ港、チョルノモルシク港、ビブジェヌイ港）からの輸出が再開したが、2023年7月17日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。ウクライナ農業政策食料省によれば、同イニシアティブ履行期間中の輸出実績（2022年8月～23年7月）は、穀物・油糧種子等6,846万トン（うち、小麦1,728万トン、とうもろこし2,949万トン）。

ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関（IMO）に通報し、2023年8月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊や、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU域内を経由した輸出（鉄道又はトラック）は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が大半を占めている。

（参考）ウクライナの輸出量の推移（月毎）（2022年3月～2025年2月）



出典：農業政策食料省のデータをもとに農林水産省で作成

注：データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計。

1 豪州：小麦の生産量が過去3番目の高水準に

USDA によれば、2024/25 年度の豪州の小麦生産量は 3,410 万トンと、前月予測から 7% 上方修正され、前年度から 31% 増加し、過去 5 年平均を 14% 上回る見込み。収穫面積は 1,310 万ヘクタールと、前月予測から若干上方修正され、前年度から 6% 増加し、過去 5 年平均を 8% 上回る。単収は 2.61 トン/ヘクタールと、前月予測から 6% 上方修正され、前年度から 24% 増加し、過去 5 年平均を 8% 上回る。今年度の生産量は、収穫が進むにつれ単収が当初予測を上回り、過去 3 番目の高水準となった。豪州農業資源経済科学局 (ABARES) によれば、同国の小麦生産の 60% 以上を占めるウェスタンオーストラリア州とニューサウスウェールズ州において単収が当初予想を上回った。ニューサウスウェールズ州はシーズン開始当初から良好な土壌水分に恵まれた一方、ウェスタンオーストラリア州は乾燥状態の中でシーズンを開始したが、生育期を通じて降雨に恵まれ、最終的には平年以上の単収を達成した。

2 南アフリカ：ラニーニャ現象の降雨によりとうもろこしの生産量が増加

USDA によれば、2024/25 年度の南アフリカのとうもろこし生産量は 1,600 万トンと、前月予測から 6% 下方修正されたものの、前年度から 19% 増加する見込み。収穫面積は 300 万ヘクタールと、前月予測から 5% 下方修正され、前年度とほぼ同水準。単収は 5.33 トン/ヘクタールと、前月予測から 1% 下方修正され、過去 5 年平均とほぼ同水準であるものの、エルニーニョ現象による干ばつに見舞われた前年度からは 19% 増加している。

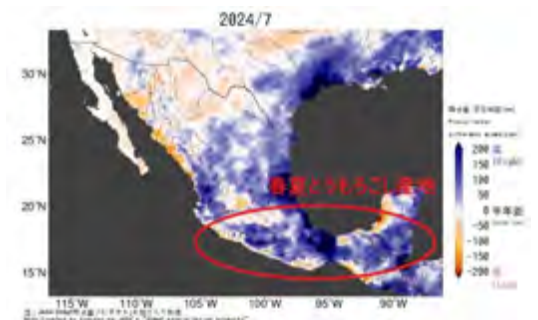
同国主要穀物協同組合によれば、早植えとうもろこしは 11 月中旬から 12 月中旬にかけて乾燥天候に見舞われたものの、1 月から 2 月にかけてラニーニャ現象による降雨に恵まれ、単収は平年並みまで回復する見込み。

3 メキシコ：北西部の乾燥によりとうもろこしの単収が減少

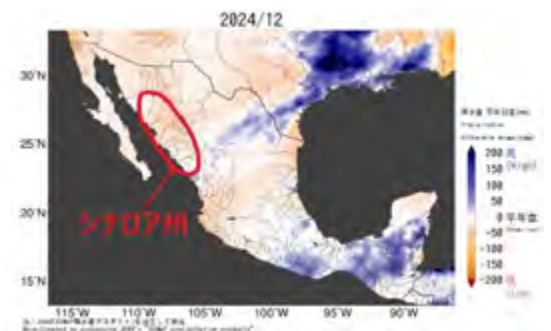
USDA によれば、メキシコの 2024/25 年度のとうもろこし生産量は 2,330 万トンと、前月予測から 2% 下方修正され、前年度から 1% 減少し、過去 5 年平均を 12% 下回る見込み。収穫面積は 640 万ヘクタールと、前月予測及び前年度より 4% 増加するものの、過去 5 年平均を 6% 下回る。単収は 3.67 トン/ヘクタールと、前月予測から 6% 下方修正され、干ばつに見舞われた前年度から 5% 減少し、過去 5 年平均を 6% 下回る。

メキシコのとうもろこしの栽培期には春夏期と秋冬期があり、主に天水灌漑により栽培される春夏とうもろこしが生産量の約 70% を占める。メキシコ農業食品漁業情報サービス (SIAP) によれば、今期、最大生産州のチアパス州では前年度並みの一方、15 州で収穫面積が増加した。これは、6 月下旬からの降雨により土壌水分が改善され、農家が前年度より春夏とうもろこしの作付面積を増加させたことによる。一方、秋冬とうもろこしの作柄は悪い。秋冬とうもろこしの約 7 割は北西部のシナロア州で栽培されるが、同州の農家によれば、高温乾燥が継続し貯水池の水位が低下している。通常、生育期に 4 回灌漑を行うところ、今年は貯水池の水を 1 回しか利用できず、地下水の水を汲み上げて 2 回目の灌漑を行う農家もいるという。

図：メキシコの降水量（平年対差）
（2024 年 7 月）



（2024 年 12 月）



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム (JASMAI)

II 2025 年 3 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、2 月末、190 ドル/トン台後半で推移。3 月に入り、米国の関税措置による報復関税に伴う米国産の需要低下懸念等を受けて190ドル/トン台前半まで下落したものの、米国小麦産地の乾燥予報やロシア産小麦の2025/26年度の収穫見通しが下方修正されたこと等を受けて上昇し、3月中旬現在、200ドル/トン台前半で推移。

とうもろこしは、2 月末、170 ドル/トン台後半で推移。3 月に入り、米国の対メキシコ関税に対するメキシコの報復関税の可能性による米国産の需要低下懸念等を受けて170ドル/トン台前半まで下落。その後、米国のメキシコ関税について、米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）に準拠した製品が4月2日まで対象外になることから、メキシコの報復関税による米国産の需要低下懸念が和らいだこと等を受けて180ドル/トン台前半まで上昇したものの、米国のEUに対する関税に対するEUの報復関税発表により米国産の需要低下懸念等を受けて下落し、3月中旬現在、170ドル/トン台半ばで推移。

コメは、2 月末、440 ドル/トン台半ばで推移。3 月に入り、アジアからの需要低迷、アフリカにおけるインド産米等との競合を受けて下落し、3月中旬現在、430ドル/トン台後半で推移。

大豆は、2 月末、370 ドル/トン台前半で推移。3 月に入り、米国の対中関税の導入に対する中国の大豆への報復関税の実施による米国産の需要低下懸念等を受けて360ドル/トン前半まで下落した。その後、2月下旬からの下げの反動等を受けて370ドル/トン台前半まで上昇したものの、ブラジルの収穫進捗等を受けて下落し、3月中旬現在、360ドル/トン台前半で推移。

（注）小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、コメはタイ国家貿易委員会価格

III 2024/25 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前年度より 0.3%増の 28.26 億トン。消費量は、前年度より 1.5%増の 28.61 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も前年度を下回り 26.5%となる見込み（資料2参照）。

生産量は、前年度より、とうもろこしで減少も、小麦、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.26 億トンの見込み。

消費量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.61 億トンの見込み。

貿易量は、前年度より、コメで増加も、小麦、とうもろこしで減少し、穀物全体で減少し、4.89 億トンの見込み。

期末在庫量は、7.58 億トンと前年度より減少、期末在庫率も、前年度より減少する見込み。

（注：数値は3月の USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による）

IV 2024/25 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.79 億トン。消費量は前年度を上回り 6.69 億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率は前年度を上回る 20.8%となる見込み。

（注：数値は3月の USDA 「Oilseeds : World Markets and Trade」等による）

V 今月の注目情報：米国の 2025/26 年度の生産・輸出動向

米国の2024/25年度の生産量は、前年度に比べとうもろこしは減少となった一方、小麦は9%増、大豆もとうもろこしから作付けがシフトしたことにより5%増となった。

2025年2月27日、USDAは農業アウトルックフォーラムにて、2025/26年度の穀物及び油糧種子の見通しを公表した。2025/26年度の小麦・とうもろこし・大豆の生産・輸出の見通しと第二次トランプ政権の最近の政策動向についてまとめた。

注：文中の「2024/25 年度」等は市場年度で、米国の小麦は 2024 年 6 月から 2025 年 5 月、とうもろこし及び大豆は 2024 年 9 月から 2025 年 8 月。（品目別需給編 P. 27 参照）

1 2024/25 年度 の生産・輸出動向

（1）小麦

USDAによれば、2024/25年度の小麦の生産量は、収穫面積、単収ともに増加することから、前年度比9.3%増の53.7百万トンとなる見込み。これは、2016/17年度に次ぐ高水準。

2024/25年度の小麦の輸出量は、生産増による輸出余力の増加に加え、EU、ロシア、ウクライナの輸出余力の低下等を受け、前年度比18.1%増の22.7百万トンとなる見込み。これは、2021/22年度以来の水準。

（2）とうもろこし

2024/25年度のとうもろこしの生産量は、前年度比3.1%減の377.6百万トンとなる見込み。天候に恵まれ史上最高の単収を記録したものの、作付け時の価格が大豆に有利だったことから、とうもろこしから大豆に作付けがシフトし、収穫面積が4.2%減少したことによる。

2024/25年度のとうもろこしの輸出量は、米国産が価格競争力を有することから、前年度比6.9%増の62.2百万トンとなる見込み。これは、史上3番目の高水準。

（3）大豆

2024/25年度の大豆の生産量は、中西部で夏の後半から秋にかけて乾燥型の天候となったものの、生育期終盤を迎えていたため単収に大きな影響はなく、収穫面積、単収ともに前年度より増加し、前年度比4.9%増の118.8百万トンとなる見込み。これは、史上4番目の高水準。

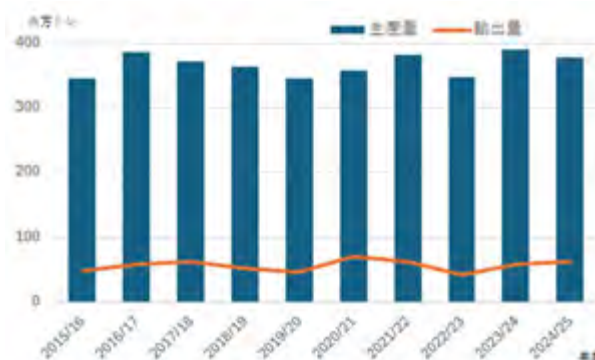
2024/25年度の大豆の輸出量は、世界の搾油用

図1 米国の小麦生産量・輸出量の推移



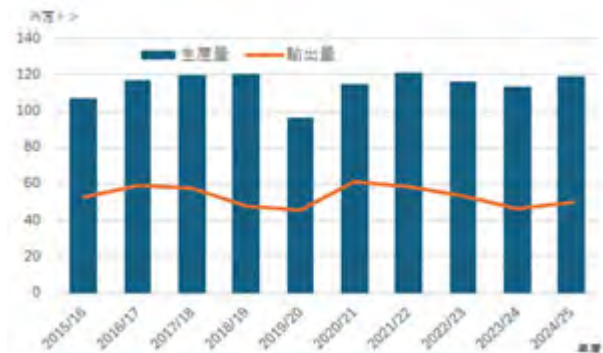
出典：USDA「PS&D」（2025.3）をもとに農林水産省で作成

図2 米国のとうもろこし生産量・輸出量の推移



出典：USDA「PS&D」（2025.3）をもとに農林水産省で作成

図3 米国の大豆生産量・輸出量の推移



出典：USDA「PS&D」（2025.3）をもとに農林水産省で作成

需要の増加に伴い、前年度比 7.7%増の 49.7 百万トンとなる見込み。

2 2025/26 年度の生産・輸出動向

(1) 小麦

USDA 農業アウトルックフォーラム (2025.2.27) によれば、2025/26 年の小麦の作付面積は、主に冬小麦の作付増により、前年比 2.0%増の 19.0 百万ヘクタールとなる見込み。春小麦とデュラム小麦の作付面積は、大豆の作付面積の減少が見込まれる北部平原での作付可能面積の増加により、前年度より増加すると見込まれるが、とうもろこしの収益増が期待されることから、作付面積の増加は限定的なものとなると予測されている。2025/26 年度の収穫面積は、過去 10 年の収穫面積/作付面積の比率に基づくと、前年度より若干減少し 1,554 万ヘクタールとなる見込み。2025/26 年度の単収は、長期的な単収の傾向に基づき、前年度比 2.0%減の 3.37 トン/ヘクタールとなる見込み。2025/26 年度の生産量は、収穫面積の微減と単収の減少により、前年度より 2.3%減少し 5,242 万トンとなる見込み。

2025/26 年度の小麦の輸出量は、アルゼンチン、豪州、カナダの生産量が前年度並みと予想され、輸出競争が継続することから、2,313 万トンと前年度と変更ない見込み。期末在庫量は前年度から 4.0%増の 22.48 万トン

(2) とうもろこし

2025/26 年度のとうもろこしの作付面積は、作付けが競合する大豆、綿花、ソルガム等の作物に比べて価格が有利であるため、前年度より 3.8%増の 3,804 万ヘクタールとなる見込み。2025/26 年度の単収は、平年並みの天候を仮定して、11.36 トン/ヘクタールとなる見込み。2025/26 年度の前年度は、収穫面積の増加と単収の微増により、前年度より 4.9%増加し、3 億 9,587 万トンと史上最高を記録する見込み。

一方、2025/26 年度のとうもろこしの輸出量は、南米からの輸出量の増加に伴い、米国の世界市場でのシェアが減少すると見込まれること

表 1 米国の 2025/26 年度需給見通し (小麦)

(単位: 百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26	
			予測値	対前年度 増減率(%)
生産量	49.10	53.64	52.42	▲ 2.3
消費量	30.16	31.41	31.41	-
うち飼料用	2.31	3.27	3.27	-
輸出量	19.24	23.13	23.13	-
輸入量	3.76	3.54	2.99	▲ 15.4
期末在庫量	18.94	21.61	22.48	4.0
期末在庫率	38.3%	39.6%	41.2%	1.6
(参考)				
収穫面積(百万ha)	15.01	15.58	15.54	▲ 0.3
単収(t/ha)	3.27	3.44	3.37	▲ 2.0

出典: USDA「Agricultural Outlook Forum (2025.2.27)」をもとに農林水産省で作成
注: 換算の関係で USDA「PS&D」(2025.3) 等と数値が一致しない場合がある

写真 1 イリノイ州の収穫期を迎えた小麦畑



撮影者: ブライアン・スコット氏 (2025.7.3 撮影)

表 2 米国の 2025/26 年度需給見通し (とうもろこし)

(単位: 百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26	
			予測値	対前年度 増減率(%)
生産量	389.68	377.64	395.87	4.8
消費量	321.91	321.70	324.75	0.9
うち飼料用	147.45	146.69	149.87	2.2
エタノール用等	139.15	139.71	139.71	-
輸出量	58.22	62.23	60.96	▲ 2.0
輸入量	0.71	0.64	0.64	-
期末在庫量	44.78	39.12	49.91	27.6
期末在庫率	11.8%	10.2%	12.9%	2.8
(参考)				
収穫面積(百万ha)	35.01	33.55	34.84	3.9
単収(t/ha)	11.13	11.26	11.36	0.9

出典: USDA「Agricultural Outlook Forum (2025.2.27)」をもとに農林水産省で作成

写真 2 インディアナ州のとうもろこし畑



撮影者: キップ・トムス氏 (2025.7.2 撮影)

から前年度より 2.0%減の 6,096 万トンとなる見込み。期末在庫量は前年度から 27.6%増の 4,991 万トンと見込まれる。期末在庫率は 12.9%となり、2019/20 年度以来の高水準となる見込み。

(3) 大豆

2025/26 年度の大豆の作付面積は、価格が有利なとうもろこしに作付けがシフトすることから、前年度より 3.6%減の 3,399 万ヘクタールとなる見込み。2025/26 年度の単収は、平年並みの天候を仮定して、3.53 トン/ヘクタールとなる見込み。2025/26 年度の生産量は、単収の増加が収穫面積の減少によりほぼ相殺され、前年度から微増の 1 億 1,893 万トンとなる見込み。

2025/26 年度の大豆の輸出量は、世界的な大豆需要の増加に伴い、前年度より 2.2%増の 5,076 万トンとなる見込み。米国の輸出量は増加するものの、輸出シェアは引き続き 30%を下回ると予想される。期末在庫量は搾油量と輸出量の増加に伴い、前年度から 15.8%減少し、871 万トンとなる見込み。

3 第二次トランプ政権の関税政策と国際穀物価格への影響

2025 年 1 月 20 日、トランプ新大統領が就任した。2 月 1 日、国際緊急経済権限法 (IEEPA) を根拠とし、カナダとメキシコ産の全製品に 25% (ただし、カナダ産のエネルギー・資源は 10%)、中国産の全製品に 10%の追加関税を 2 月 4 日より課す大統領令を発表した。その後、トランプ大統領はメキシコとカナダに対する関税の適用を 1 か月延期したものの、中国に対する 10%の追加関税は 2 月 4 日に発動した。これを受け、中国政府は 2 月 4 日、米国産の輸入品に対し、石炭・液化天然ガスなど 8 品目に 15%、原油、農業機械など 72 品目に対して 10%の追加関税を課す措置を 2 月 10 日から実施する旨発表した。

トランプ大統領は 3 月 3 日、3 月 4 日より中国に対する追加関税をさらに 10%上乗せし、20%にする大統領令を発表した。これを受け、中国政府は 3 月 4 日、米国産の鶏肉や小麦、とうもろこしなど 29 品目に対して 15%、大豆、豚

表 3 米国の 2025/26 年度需給見通し (大豆)

(単位: 百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26	
			予測値	対前年度 増減率(%)
生産量	113.27	118.83	118.93	0.1
消費量	65.59	68.69	70.35	2.4
うち搾油用	62.24	65.59	67.36	2.7
輸出量	46.13	49.67	50.76	2.2
輸入量	0.57	0.54	0.54	-
期末在庫量	9.31	10.34	8.71	▲ 15.8
期末在庫率	8.3%	8.7%	7.2%	▲ 1.5
(参考)				
収穫面積(百万ha)	33.31	34.84	33.67	▲ 3.4
単収(t/ha)	3.40	3.41	3.53	3.6

出典: USDA 「Agricultural Outlook Forum (2025.2.27)」をもとに農林水産省で作成

写真 3 インディアナ州の収穫作業が進展する大豆畑



撮影者: ケビン・コックス氏 (2025.9.6 撮影)

図 4 直近のとうもろこしの国際価格の動向



注: 価格はシカゴ商品取引所の期近終値 (セツルメント)

図 5 直近の小麦の国際価格の動向



注: 価格はシカゴ商品取引所の期近終値 (セツルメント)

肉、牛肉、水産品、果物、野菜、乳製品など 711 品目に対して 10%の追加関税を課す措置を 3 月 10 日から実施する旨発表した。

なお、トランプ大統領は 3 月 4 日、メキシコ原産品に対して一律 25%、カナダ原産品に対しては、エネルギー・同資源に 10%、それ以外の産品に 25%の追加関税を発動したものの、3 月 6 日には、メキシコとカナダの原産品に対する追加関税の適用対象から、米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）の原産地規則を満たした産品については 4 月 2 日まで対象外とする大統領令を発表している。

また、トランプ大統領は 3 月 12 日、1962 年通商拡大法 232 条に基づき、鉄鋼・アルミニウムの輸入品に対して 25%の追加関税を発動した。これを受け、EU 欧州委員会とカナダは同日、相次いで米国に報復関税を課すと発表した。

これらの報復措置により、米国産農産物の需要は減少する可能性があり、2 月からのトランプ大統領の関税発動以来、シカゴ穀物相場は下落傾向で推移している。3 月に入り、大豆及び小麦は 1 月初旬以来の安値を、とうもろこしは 12 月中旬以来の安値を記録した。

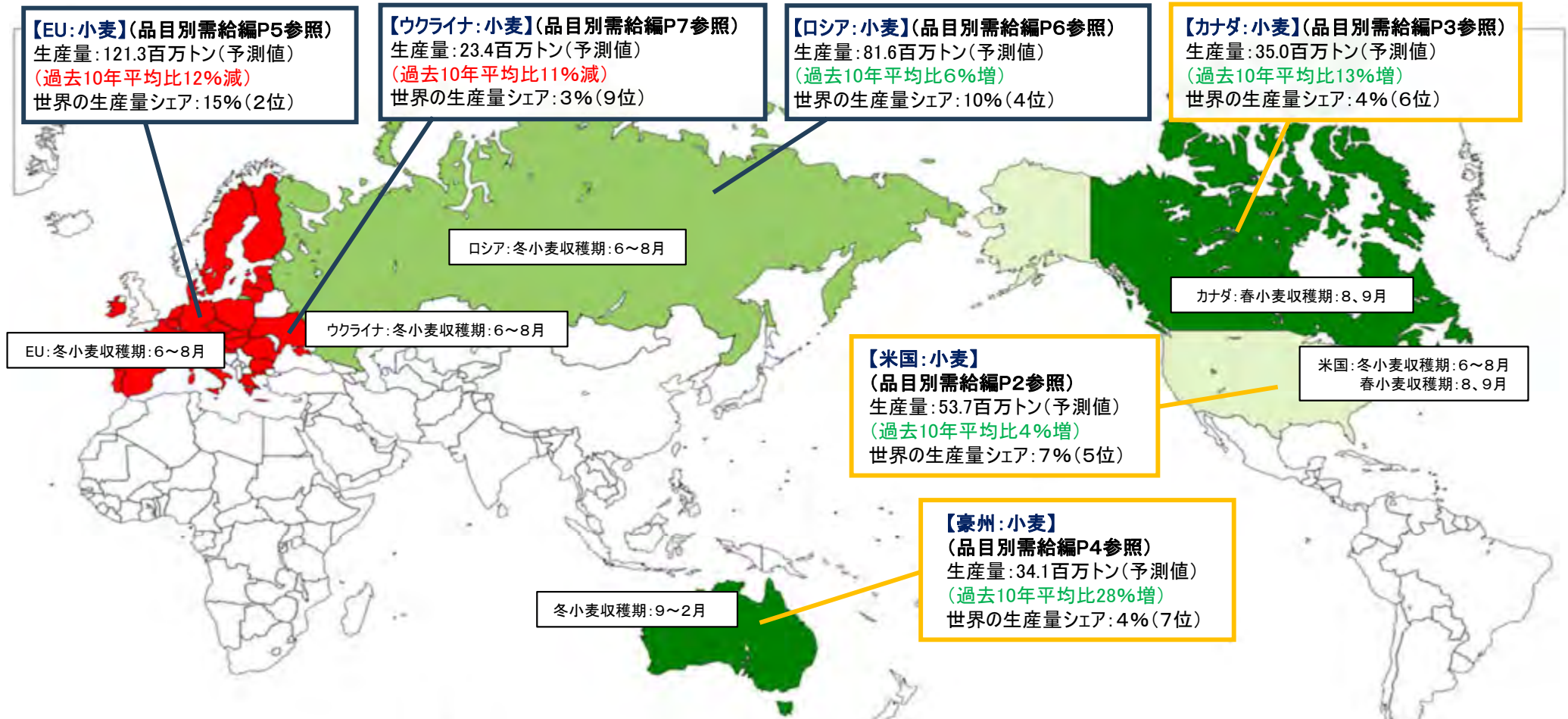
また、米国通商代表部は 2 月 21 日、中国の海事・物流・造船分野に対する 1974 年通商法 301 条に基づく措置の内容案について発表した。今回の内容案は、追加関税などの輸入制限措置ではなく、（1）中国で建造された船舶の米国の港湾への入港時の追加料金や、（2）米国製品の輸出（農産物含む）における船舶の利用条件など。当該措置は我が国の穀物輸入に大きな影響を及ぼす可能性があることから、今後の動向を注視していきたい。

図 6 直近の大豆の国際価格の動向

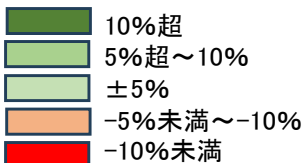


注：価格はシカゴ商品取引所の期近終値（セツルメント）

資料1-1 小麦の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2024/25年度(3月版)



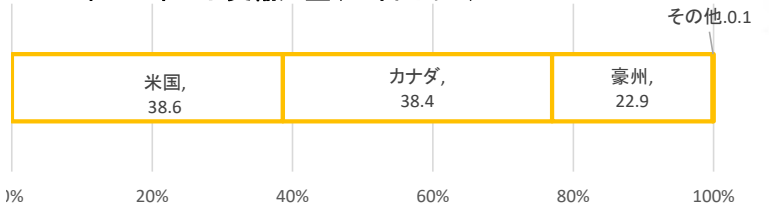
生産量増減



2024/25年度の世界の小麦輸出力(208.1百万トン) (単位: %)

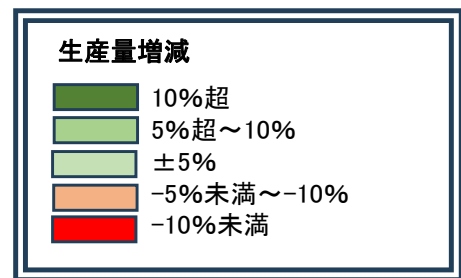
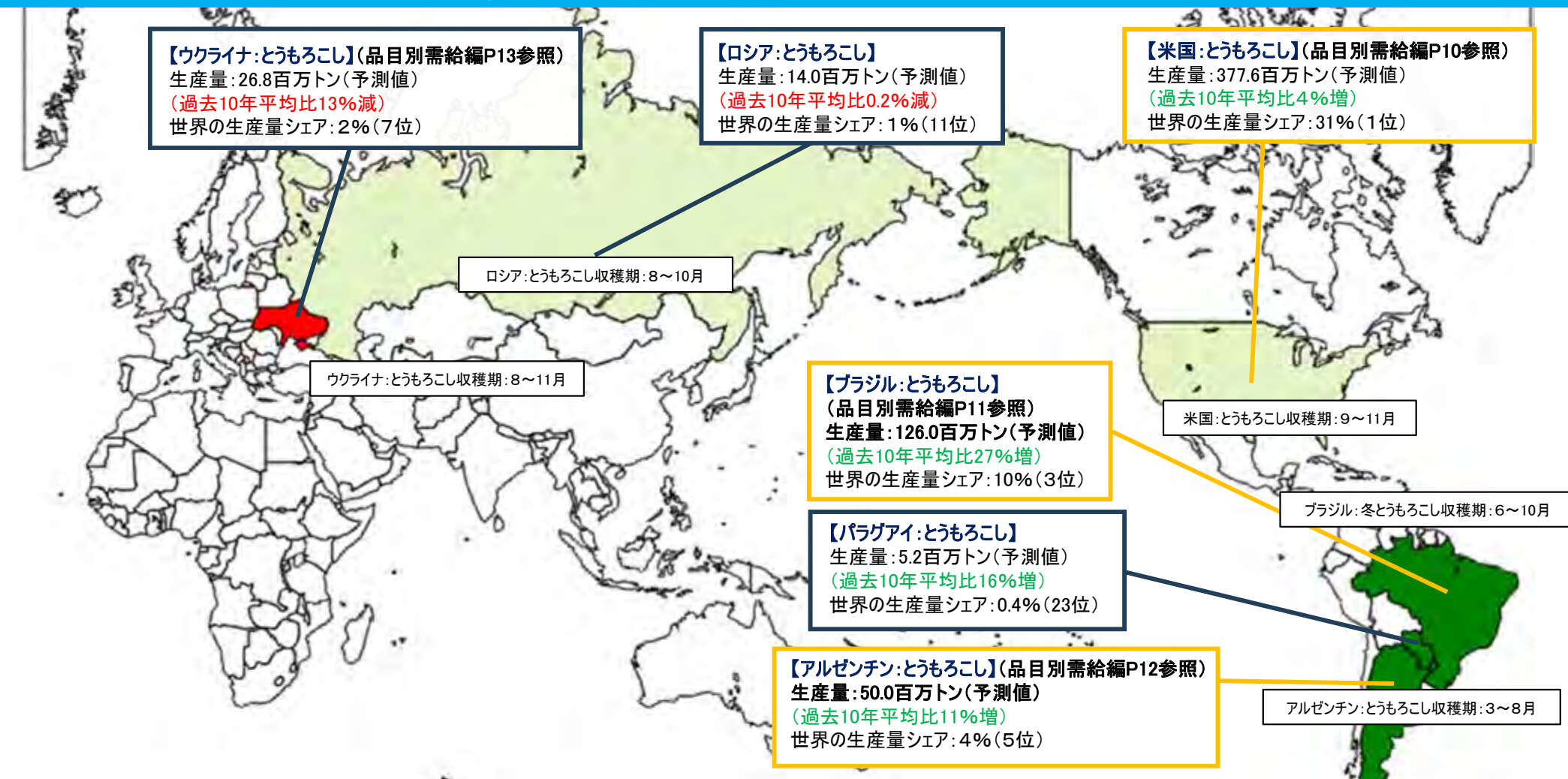


2023年の日本の小麦輸入量(5.0百万トン) (単位: %)



- 2023年度の日本の小麦輸入量は510万トンであり、日本の小麦国内消費仕向量(631万トン、うち食用は494万トン)の80.9%を占める。
- 輸入小麦の1人1日当たり供給熱量は238kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の10.8%を占める。

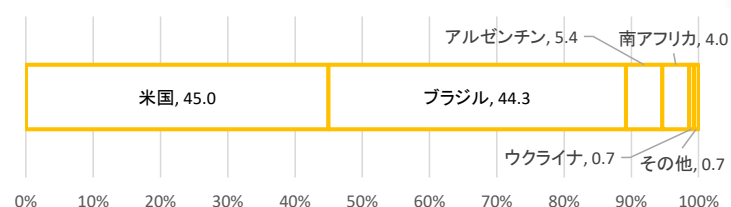
資料1-2 とうもろこしの主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2024/25年度(3月版)



2024/25年度の世界のとうもろこし輸出量(186.4百万トン) (単位:%)

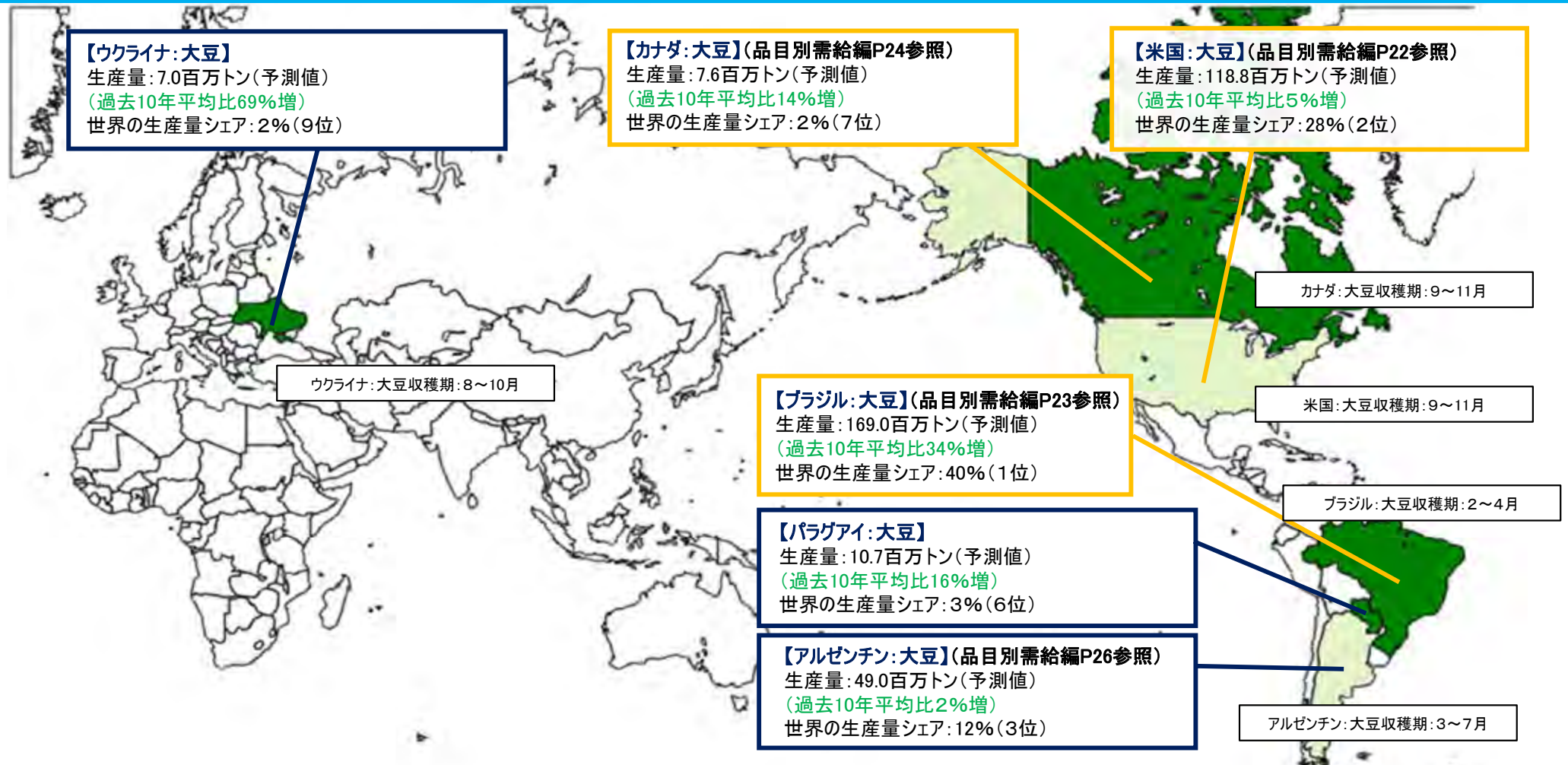


2023年の日本のとうもろこし輸入量(14.9百万トン) (単位:%)

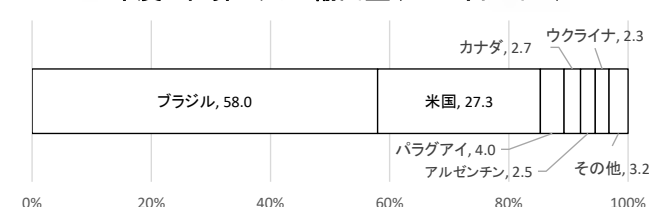


○ 2023年度の日本のとうもろこし輸入量は1,499万トンと、日本のとうもろこし国内消費仕向量(1,486万トン、うち飼料用は1,159万トン)のほぼ全量を占める。

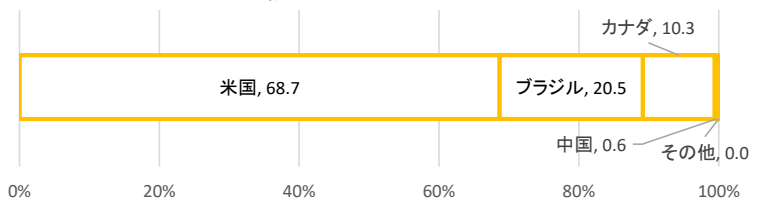
資料1-3 大豆の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2024/25年度(3月版)



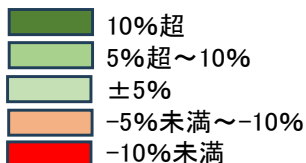
2024/25年度の世界の大豆輸出力(181.9百万トン) (単位: %)



2023年の日本の大豆輸入量(3.16百万トン) (単位: %)



生産量増減

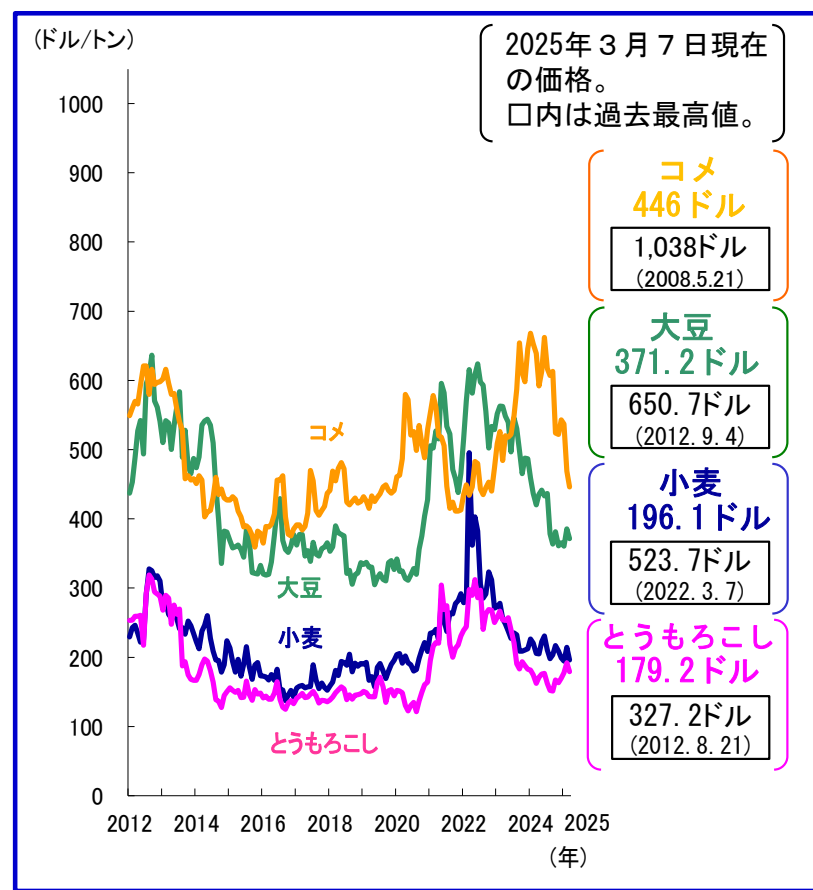
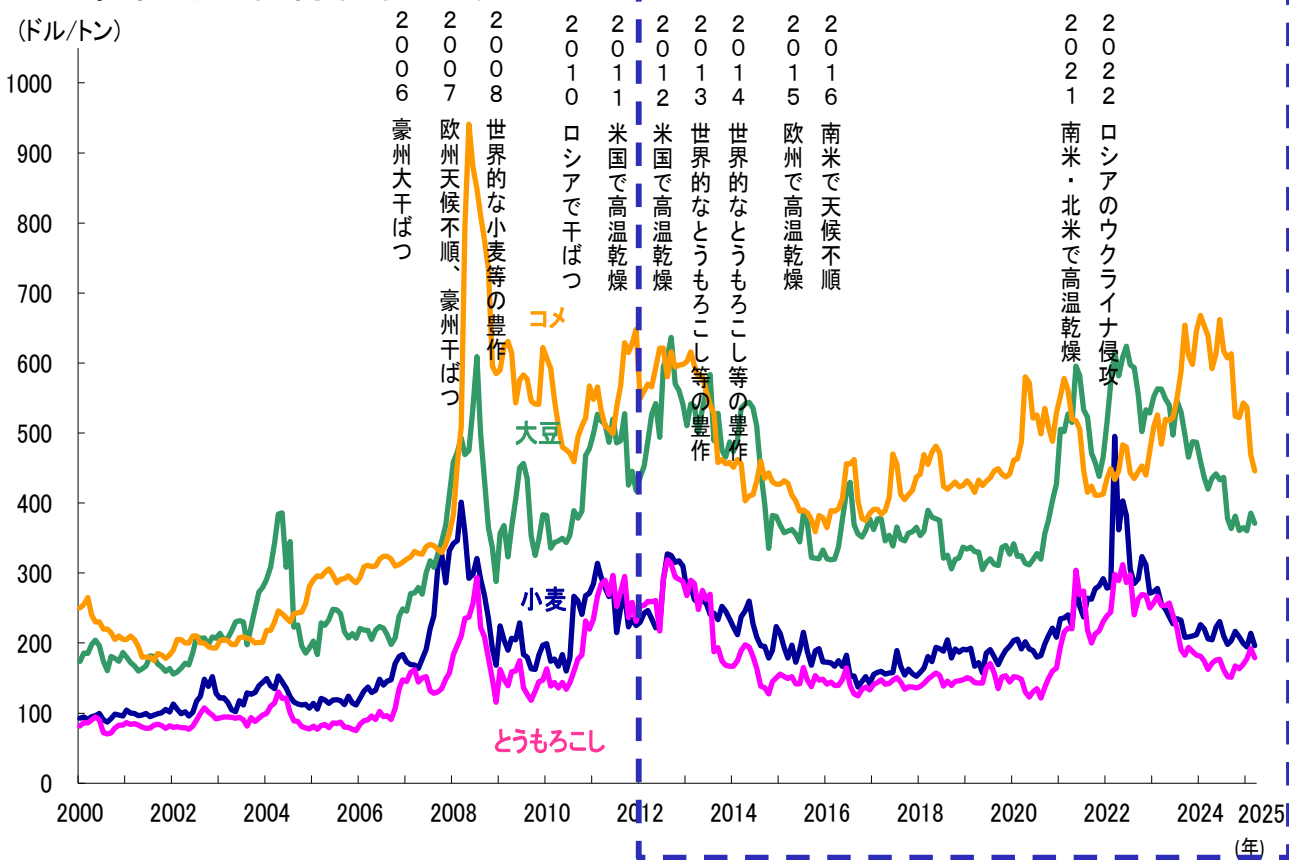


- 2023年度の日本の大豆輸入量は307万トンであり、日本の大豆国内消費仕向量(356万トン、うち大豆油などの加工用は255万トン、食用は87万トン)の86.2%を占める。
- 輸入大豆の1人1日当たり供給熱量は55kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の2.5%を占める。

資料 1—4 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで低下。一方で、とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下。コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、インドの一部輸出規制解除等を受け低下。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要に加え、ウクライナ情勢により、2008年以前を上回る水準で推移。

□ 穀物等の国際価格の動向



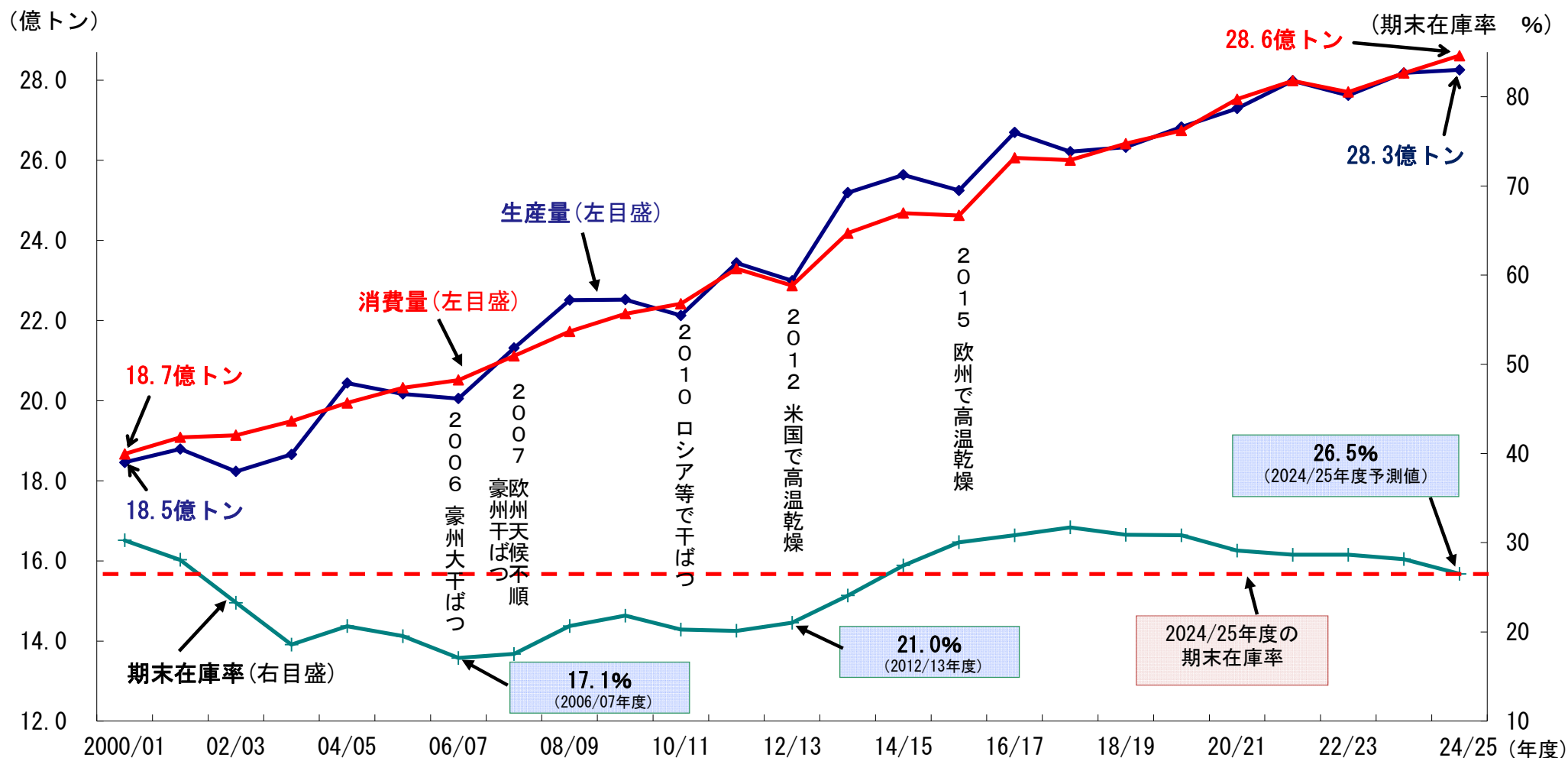
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格(セツルメント)である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。
なお、コメは2月26日の価格。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、26.5%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

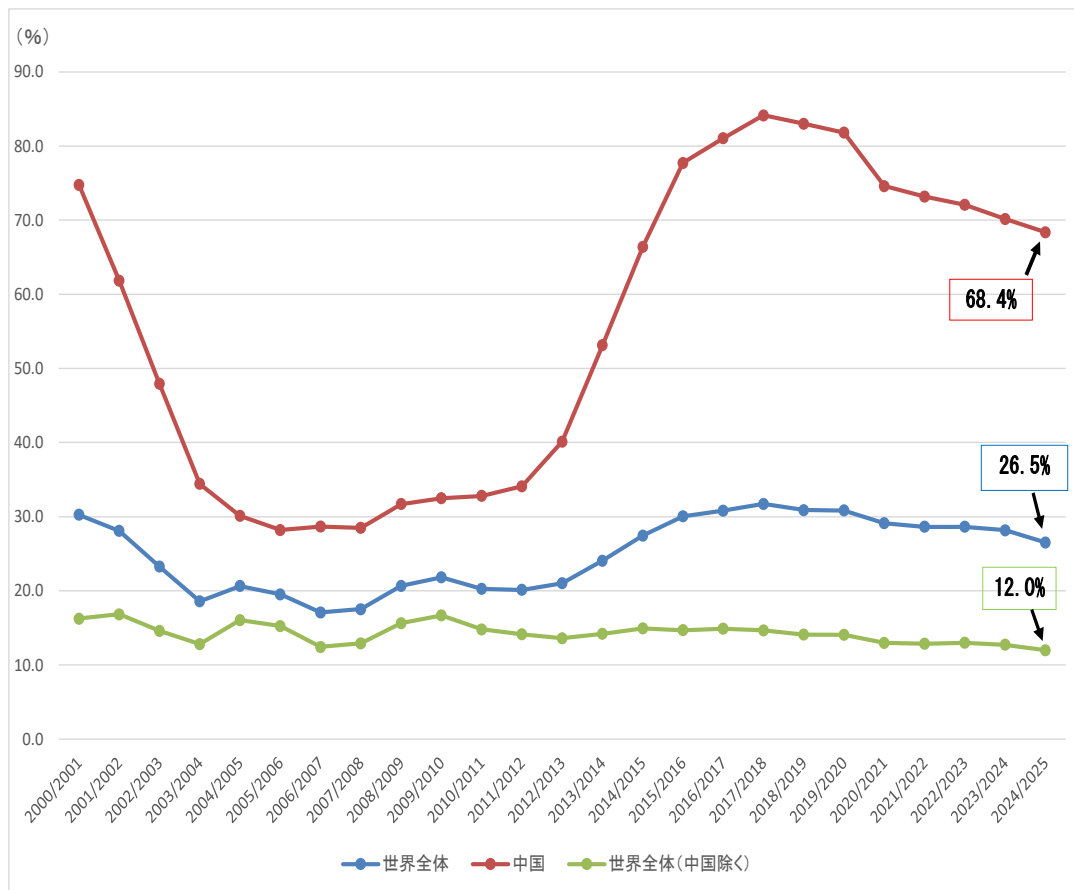


資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(March 2025)、「PS&D」

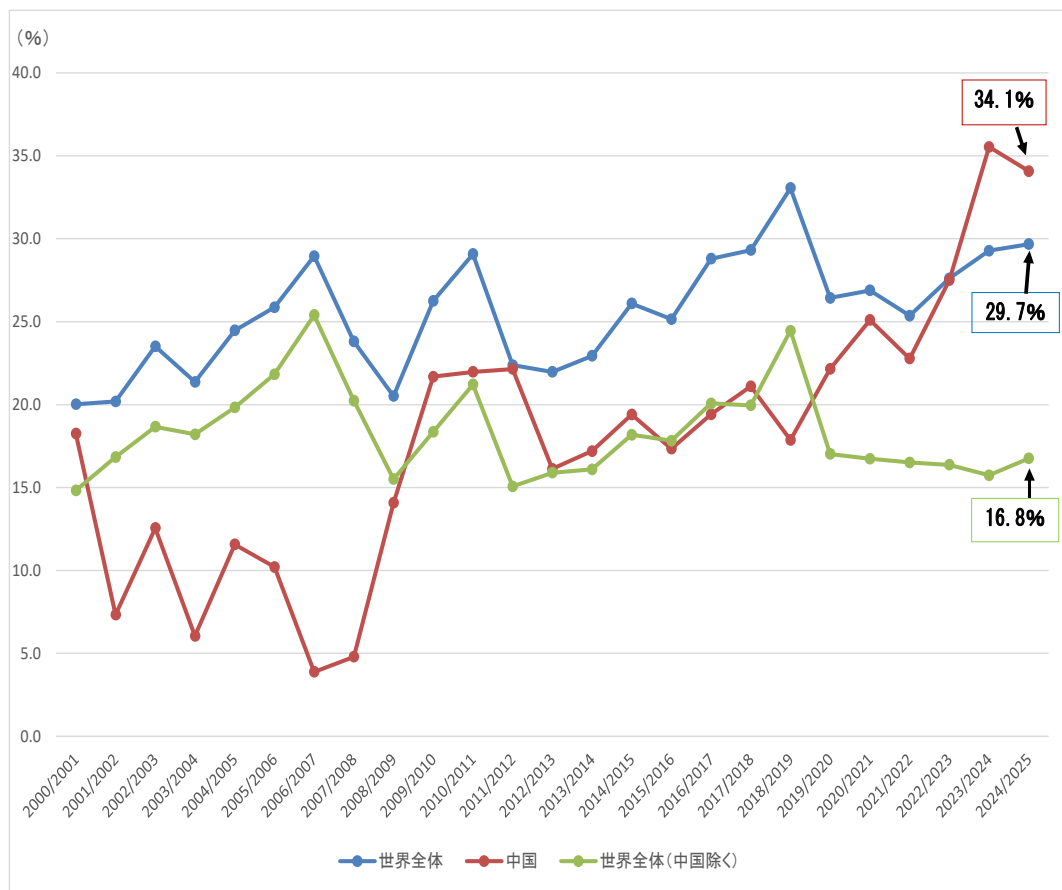
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(March 11, 2025)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

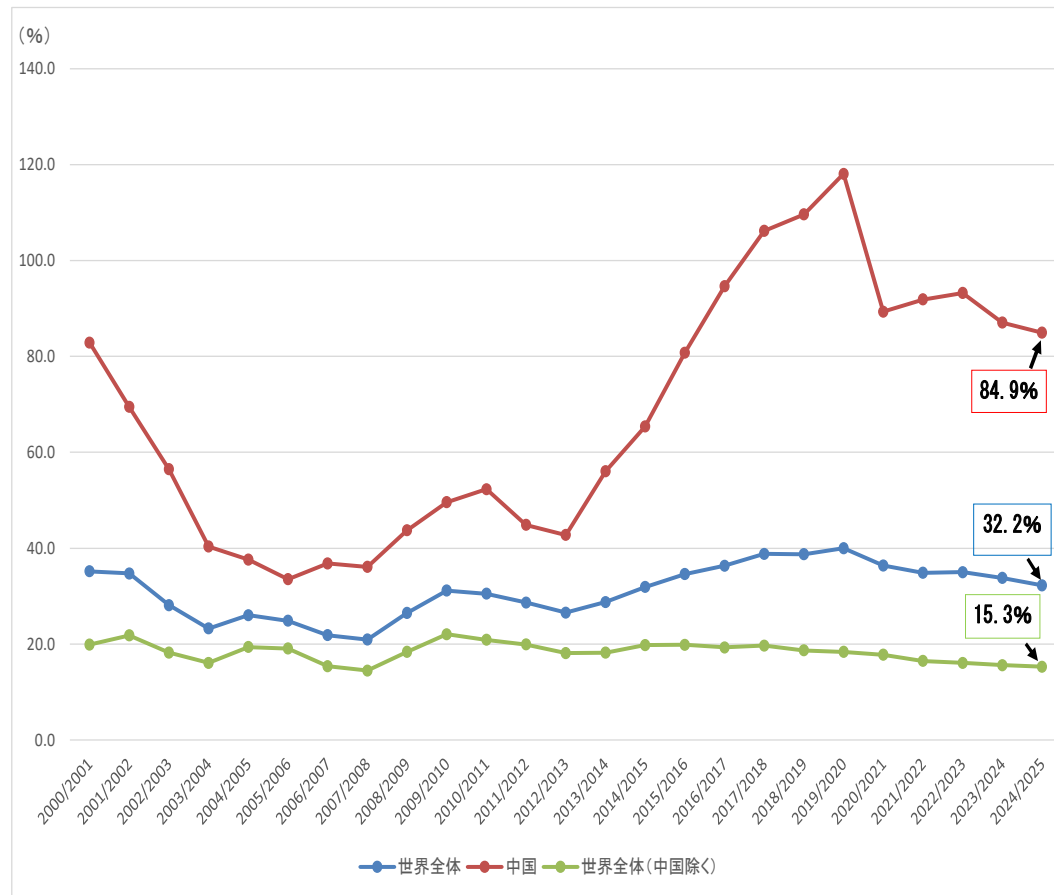
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

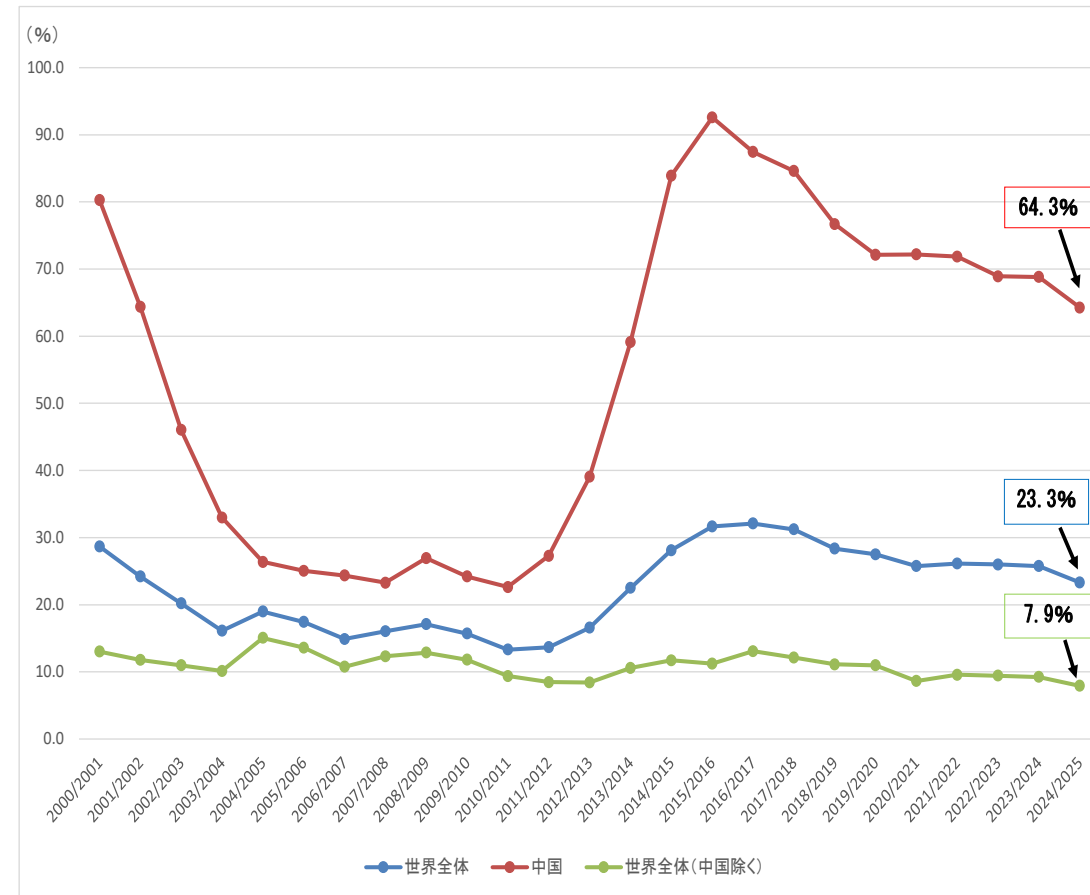
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(March 11, 2025)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

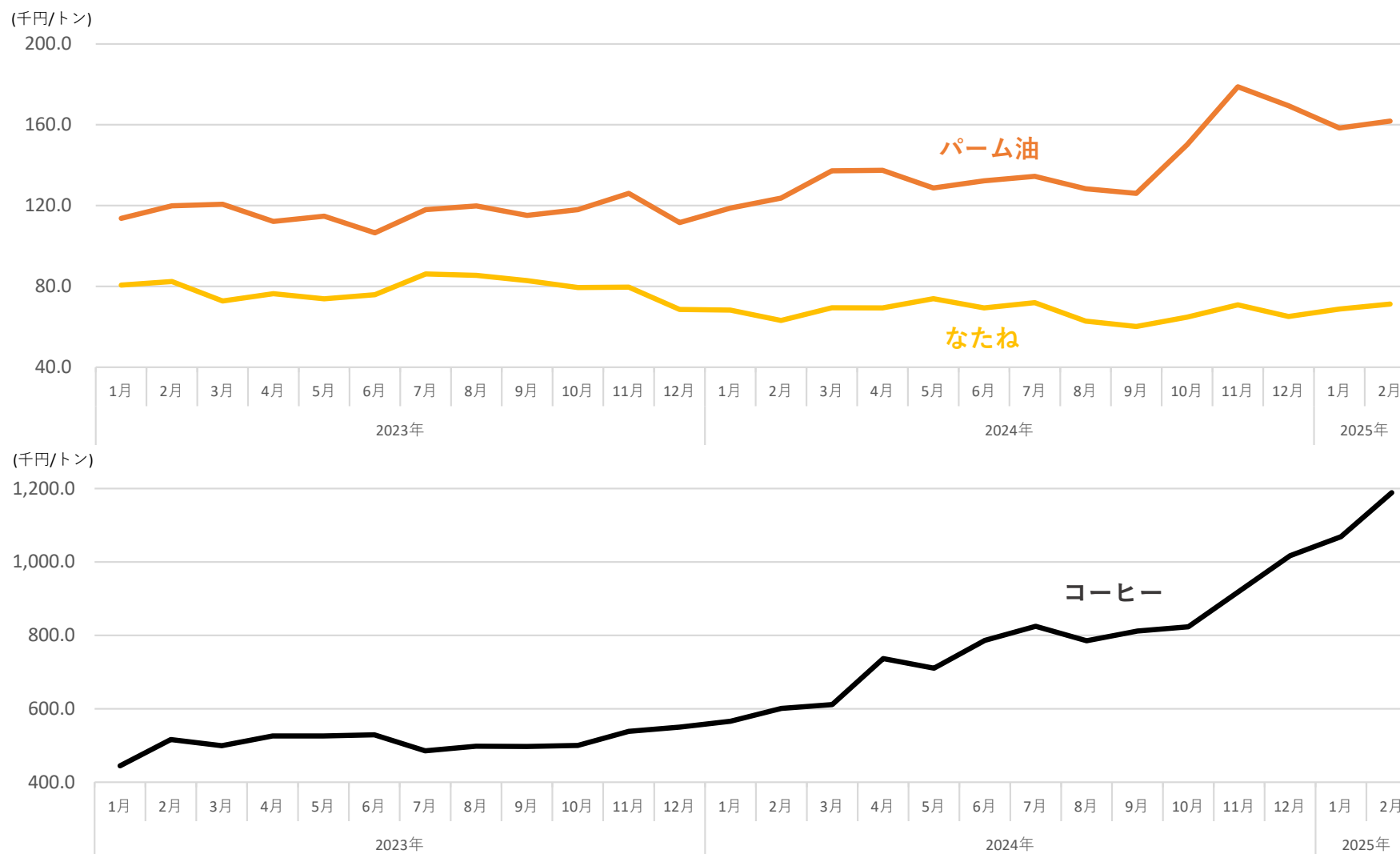
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料４－１ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- パーム油については、インドネシアのバイオ燃料政策等の影響で2024年10月以降上昇している。
- なたねについては、安定している。
- コーヒーについては、ブラジルにおける天候不順やベトナムにおける干ばつによる収穫量減少等により、2024年以降上昇している。



2025年3月24日現在
□内は2023年1月以降の最高値。

パーム油
161.8千円/トン
178.8千円/トン
(2024.11)

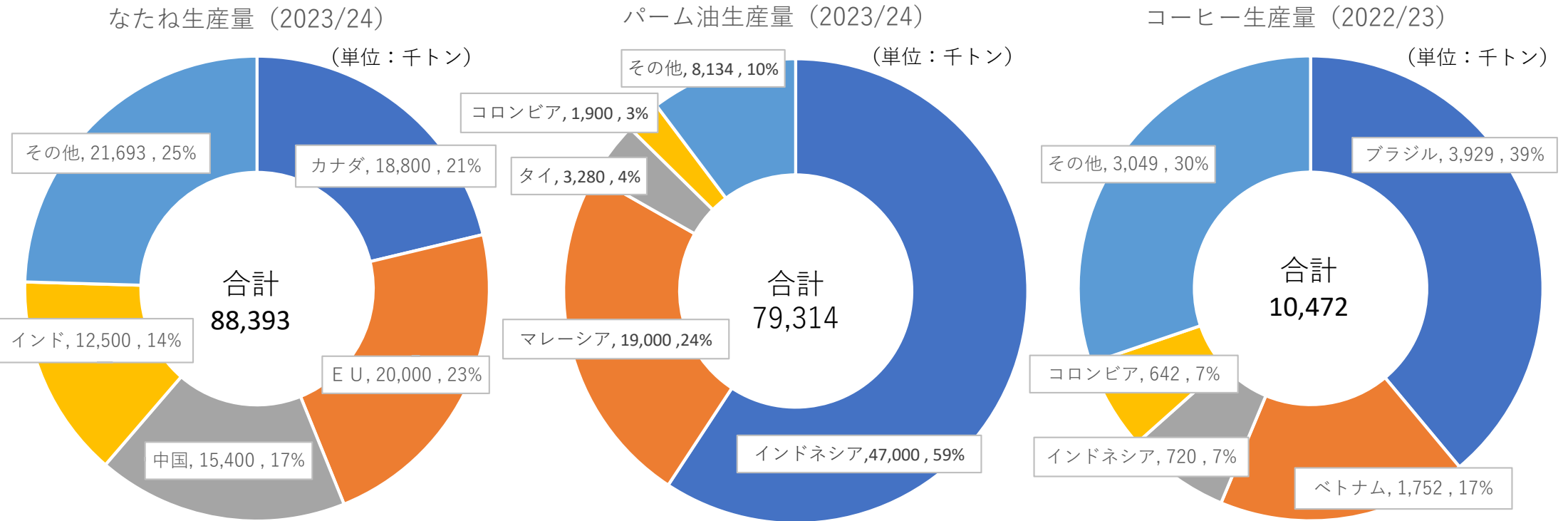
なたね
71.2千円/トン
86.2千円/トン
(2023.7)

コーヒー
1188.8千円/トン
1188.8千円/トン
(2025.2)

※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグなたね市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料 4－2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

○主要生産国の生産状況



※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年 6 月時点

※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年 6 月時点

※国際コーヒー機関（ICO）統計資料
2024年 6 月時点

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2023年））

なたね	輸入量	割合	パーム油	輸入量	割合	コーヒー	輸入量	割合
カナダ	1,039	51.4%	マレーシア	574	85.6%	ブラジル	124	35.0%
オーストラリア	983	48.6%	インドネシア	96	14.4%	ベトナム	99	27.9%
その他	0	0.0%	その他	0	0.1%	コロンビア	34	9.6%
合計	2.022	100.0%	合計	671	100.0%	その他	98	27.6%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）

資料 4－3 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね

単位（千円/トン）

	2023年												2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	80.6	82.4	72.8	76.4	73.8	75.9	86.2	85.5	82.8	79.4	79.6	68.6	68.2	63.1	69.4	69.3	73.9	69.4	71.9	62.8	60.2	64.8	70.8	65.1	68.7	71.2										
前月比	93.1	102.2	88.3	105.0	96.7	102.7	113.6	99.2	96.9	95.9	100.2	86.1	99.5	92.5	109.9	99.9	106.6	93.8	103.7	87.3	126.1	107.7	109.3	91.9	105.7	161.8										
前年同月比	90.2	90.4	70.1	66.0	61.4	70.5	96.1	100.6	96.9	85.3	84.8	79.2	84.6	76.6	95.4	90.8	100.1	91.4	83.5	73.5	812.1	81.5	89.0	94.9	100.7	1,188.8										

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

②パーム油

単位（千円/トン）

	2023年												2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	113.7	119.9	120.6	112.1	114.7	106.5	117.9	119.8	115.1	118.0	126.1	111.6	118.7	123.7	137.2	137.4	128.7	132.2	134.4	128.3	126.1	150.1	178.8	169.4	158.4	161.8										
前月比	109.1	105.4	100.7	93.0	102.3	92.9	110.7	101.6	96.1	102.4	106.9	88.5	106.4	104.2	110.9	100.2	93.7	102.7	101.7	95.4	98.2	119.1	119.1	94.7	93.5	102.2										
前年同月比	78.8	73.9	64.2	56.2	61.1	61.7	96.3	96.1	97.7	98.0	114.2	107.1	104.4	103.2	113.7	122.6	112.2	124.1	114.0	107.1	109.5	127.3	141.8	151.8	133.4	130.8										

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

資料 4－4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③コーヒー

単位（千円/トン）

	2023年												2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コー ヒー	444.4	516.3	499.6	526.2	526.1	529.1	485.5	498.1	497.4	500.3	538.5	550.2	566.3	601.1	611.7	737.0	710.8	786.3	825.0	785.5	812.1	823.4	920.3	1017.3	1068.8	1188.8										
前月 比	93.2	116.2	96.8	105.3	100.0	100.6	91.8	102.6	99.9	100.6	107.6	102.2	102.9	106.2	101.8	120.5	96.5	110.6	104.9	95.2	103.4	101.4	111.8	110.5	105.1	111.2										
前年 同月 比	85.8	96.7	98.5	95.3	95.4	88.7	83.4	84.2	78.8	85.5	112.0	115.4	127.4	116.4	122.4	140.1	135.1	148.6	169.9	157.7	163.3	164.6	170.9	184.9	188.8	197.8										

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出
2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和7年2月の国内の加工食品の消費者物価指数は114.8～152.8（前年同月比で-3.2%～5.6%）の範囲内。

消費者物価指数（総務省） （令和6年9月～令和7年2月）

	R2	R3	R4	R5	R6				R7		
品目	平均	平均	平均	平均	9月	10月	11月	12月	1月	2月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	100.0	99.2	110.3	118.7	122.3	121.6	121.5	121.9	124.6	126.8	4.1%
即席めん	100.0	100.1	107.6	119.7	120.2	118.4	122.0	120.1	118.0	121.2	-3.2%
豆腐	100.0	101.3	105.3	114.6	118.8	119.3	119.7	119.1	119.4	119.3	1.6%
食用油 (キャノーラ油)	100.0	106.9	144.4	160.2	144.3	146.9	149.8	149.9	149.0	147.6	-2.4%
みそ	100.0	99.3	101.3	108.1	114.8	115.3	114.4	114.0	114.5	114.8	1.9%
マヨネーズ	100.0	105.6	125.6	149.5	153.3	152.7	153.1	153.1	153.9	152.8	-0.9%
チーズ	100.0	98.7	107.5	131.1	133.4	134.6	133.4	128.2	132.9	133.9	1.0%
バター	100.0	99.9	99.2	108.6	120.0	120.1	120.1	119.5	120.0	119.6	0.4%
生鮮食品を 除く食料	100.0	100.2	104.1	112.6	117.8	119.2	119.9	120.1	121.0	121.6	5.6%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。
資料: 総務省消費者物価指数

【参考】 食品価格動向調査（農林水産省） （令和6年9月～令和7年3月）

	R2	R3	R4	R5	R6				R7				
品目	平均	平均	平均	平均	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	100.0	98.6	107.8	114.5	118.9	118.2	117.4	118.2	122.5	124.0	124.5	0.4%	5.0%
即席めん	100.0	99.2	105.6	117.5	119.1	115.5	118.5	117.3	115.5	116.7	116.7	0.0%	-3.6%
豆腐	100.0	100.6	103.7	113.0	116.7	118.5	119.3	118.0	118.5	118.0	117.6	-0.3%	2.3%
食用油 (キャノーラ油)	100.0	104.1	140.7	159.4	143.5	144.5	142.9	140.0	140.3	139.7	141.3	1.1%	-6.1%
みそ	100.0	99.2	100.1	105.9	110.2	110.0	110.6	108.8	109.8	110.0	110.4	0.4%	0.2%
マヨネーズ	100.0	102.2	117.7	139.8	141.3	140.6	138.6	140.6	140.6	139.9	138.9	-0.7%	-3.1%
チーズ	100.0	98.1	105.7	126.5	128.8	128.8	128.3	122.3	127.8	126.3	133.7	5.9%	3.0%
バター	100.0	99.8	99.1	108.0	118.8	119.4	119.7	119.2	120.1	119.4	124.8	4.5%	5.3%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。
注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。
注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

資料 6-1 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2025年4月号（3月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

◆牛肉

（米国）24年の牛肉輸出量は前年比1.1%減、25年も引き続き減少予測

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003664.html

（豪州）24年第4四半期の成牛と畜頭数と牛肉生産量、前年同期比で大幅増

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003665.html

（アルゼンチン）24年の牛肉輸出量は引き続き好調で3年連続の増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003666.html

◆豚肉

（米国）24年の豚肉輸出量は前年比4.3%増、25年は同2.5%増の予測

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003667.html

（EU）豚肉生産量は回復基調、豚枝肉卸売価格は下落

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003668.html

（中国）24年の豚肉生産量は前年に続き高水準、豚肉輸入量は大幅減

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003669.html

資料 6-2 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

◆牛乳・乳製品

（EU）高水準の生乳取引価格を背景に生乳出荷量は維持も、輸出量は減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003673.html

（豪州）24/25年度上半期の生乳生産量、前年同期をわずかに上回る

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003674.html

（NZ）生乳生産量7カ月連続で前年同月を上回る

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003675.html

◆飼料穀物

（世界：トウモロコシ）生産減・消費増などから期末在庫はかなりの程度減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003677.html

（世界：大豆）アルゼンチンの生産減、ブラジルの消費増から大豆期末在庫は下方修正

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003678.html

（米国）米国の生産量はやや減少、生産者価格は前年度に続き下落

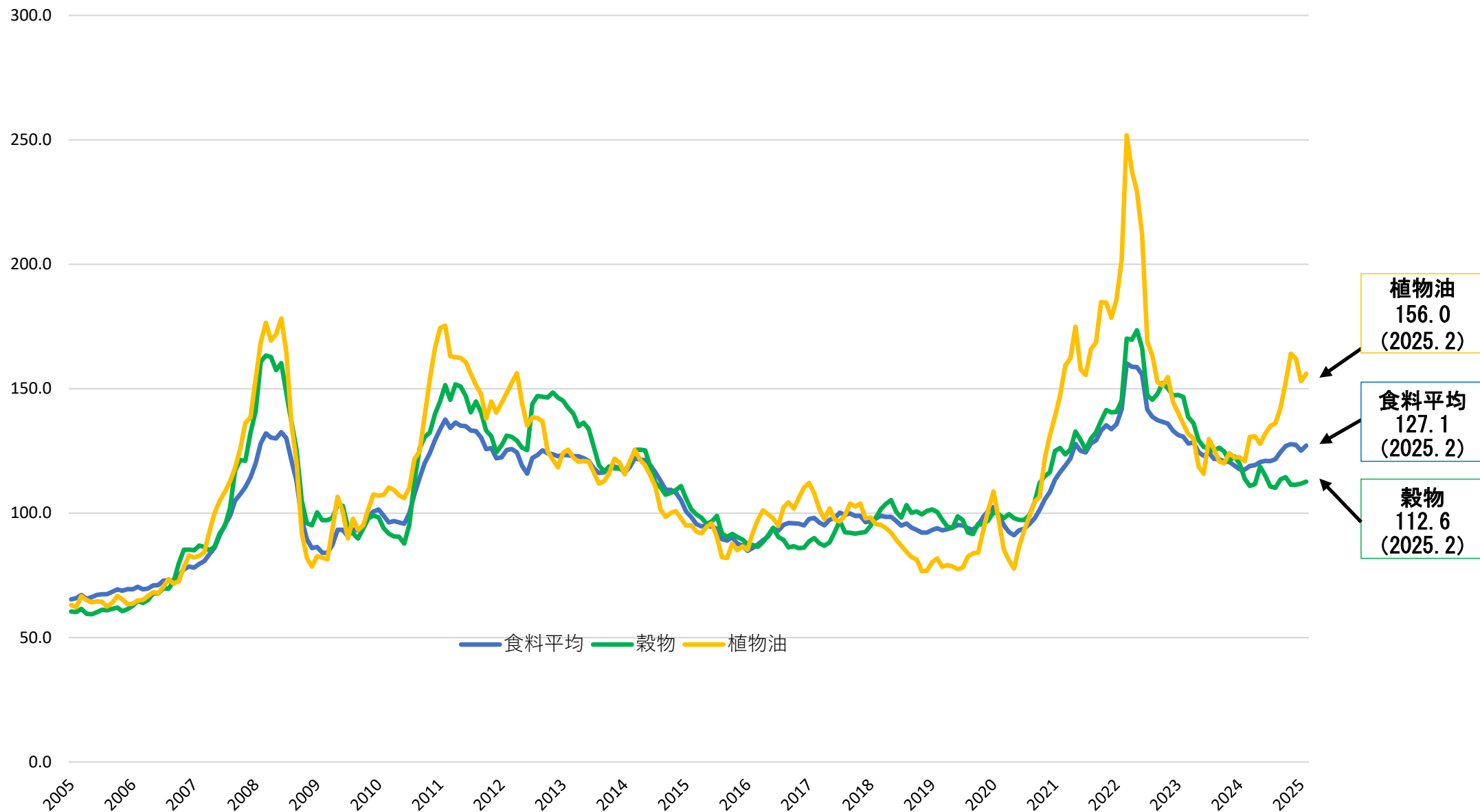
https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003679.html

（中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003680.html

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2025.2)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

インドネシアの食料事情①：食文化（インドネシア料理）

1 はじめに

インドネシアは、約 17,000 の島から成る島嶼国であり、国土面積は日本の約 5 倍、人口は約 2.8 億人を擁する東南アジア最大の国です。また、世界最大のイスラム教徒人口（総人口の約 9 割）を誇り、約 1,300 の民族が共生する多民族国家でもあります。

日本との関係においては、最近、インドネシアからの旅行客や特定技能実習生など人的交流が増えてきています。

今回は、そんなインドネシアの大都市である首都ジャカルタを中心とした食文化について紹介します。

2 インドネシアの食事情

インドネシアの首都であるジャカルタは、約 1,000 万人の人口を抱える大都市であり、甘めの味付けが特徴の「ジャワ料理」やトウガラシ等の香辛料を使った辛い味付けが特徴の「パダン料理（スマトラ島の伝統料理）」など、多民族文化を反映した様々なインドネシア料理を楽しむことができます。インドネシア料理は、「ナシゴレン（炒飯）」や「サテ（鶏肉、羊肉、牛肉の串焼き）」、「ルンダン（牛肉などをココナッツミルクで煮込んだ料理）」等が有名であり、特に「ルンダン」は米 CNN の「The world's 50 best foods」にも選ばれたことがあります。これらの料理は多くの日本人の口にも合う料理です。

また、インドネシアはドリアン、マンゴスチン、ランブータン、パパイヤ、バナナ、パイナップルなどに代表される熱帯の果物が豊富な国で、スーパーや市場ではそのシーズンの果物を手軽に購入できます。ドリアンは「ドリアンストリート」と呼ばれるように、道の両端に延々と屋台が並んで売られている場所もあります。シーズンになると、マンゴーも約 10 種類が市場に出回り、インドネシア人は品種を見分けて、値段、大きさ、色、形、味などの自分の嗜好に合わせて購入します。これらの果物は、インドネシア人の身近な楽しみの一つとなっています。

その他の特徴的な食事情として、日本以上に発達しているフードデリバリーサービスが主流となっていることが挙げられます。インドネシアでは外食や調理済み食品等の消費が多い傾向にありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により経済・社会活動が制限されたことから、フードデリバリーサービスの需要が拡大しました。スマートフォンアプリで簡単に注文できることから、忙しいビジネスマンや家庭にとっても非常に便利なサービスとなっています。

3 終わりに

今回、インドネシアの食事情についてご紹介させていただきましたが、当地に住んでみた食の感想として、様々なインドネシア料理がある中で、羊肉のサテ（写真1）、ルス（写真2）、マンガーは食べた後に思わず「美味しい」と唸ってしまうほど感動的においしいものでした。近年のインドネシアは経済発展が著しく、日本食料理店も多く進出してきており、物価は高くなっているものの比較的アルコール飲料や豚肉も容易に購入することができ、日本人にとって食の部分でも住みやすい土地だと感じています。

次回は、日本からインドネシアへの農林水産物・食品輸出について紹介したいと思います。

文責：小宮 元晃（在インドネシア日本国大使館 一等書記官）



写真1 サテ（羊肉と鶏肉の串焼き）

主に鶏肉、牛肉、羊肉を串に刺して炭火で焼いたものです。焼くことで香ばしさが引き立ち、外はカリッと、中はジューシーに仕上がります。甘いピーナッツソースやサンバル（辛いソース）を好みで使います。サテは特にストリートフードとして親しまれており、屋台などで手軽に楽しむことができます。



写真2 ルス（牛の肋骨（リブ）を使ったスープ）

牛の肋骨（リブ）を使った料理で、肉が柔らかくなるまで長時間煮込まれます。この柔らかい骨付き肉と半透明で濃厚なスープは共に美味しく食べ応えのある一品です。

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介するものです。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴などについてご紹介したいと思います。

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・豪州、アルゼンチン、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

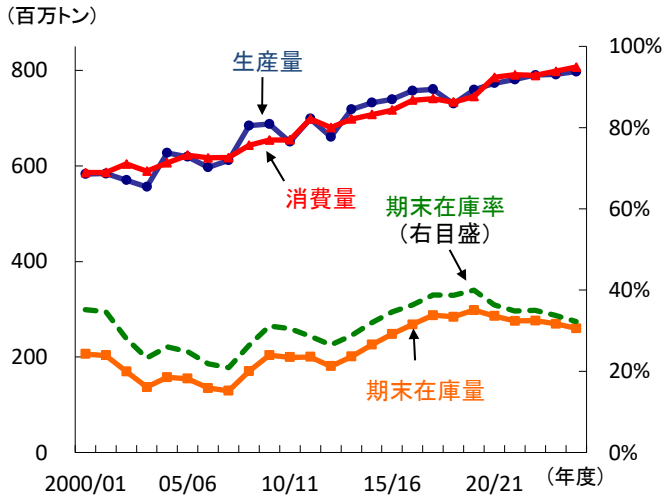
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・イラン等で下方修正されたものの、EU、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・豪州等で上方修正されたものの、EU、ロシア、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料:USDA「PS&D」(2025. 3. 11) をもとに農林水産省にて作成

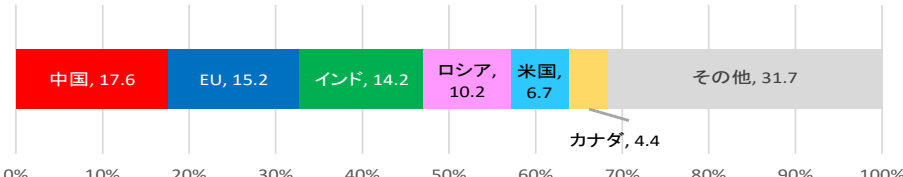
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

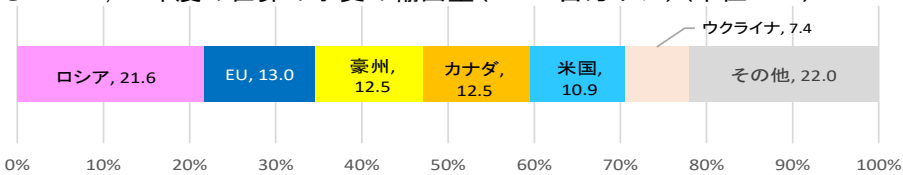
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	789.9	791.2	797.2	3.4	0.8
消 費 量	789.3	797.9	806.7	2.9	1.1
うち飼料用	152.8	159.2	154.9	1.3	▲ 2.8
輸 出 量	221.8	221.2	208.1	▲ 0.9	▲ 5.9
輸 入 量	213.6	222.3	202.7	▲ 2.1	▲ 8.8
期末在庫量	276.1	269.5	260.1	2.5	▲ 3.5
期末在庫率	35.0%	33.8%	32.2%	0.2	▲ 1.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 March 2025)

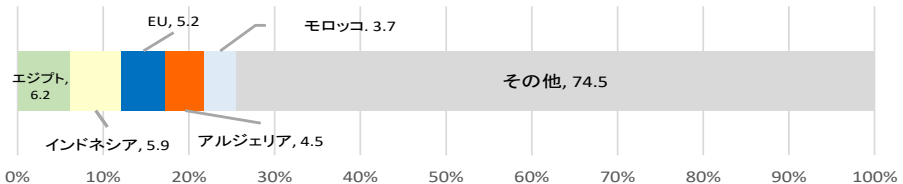
○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(797.2百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出量(208.1百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(202.7百万トン)(単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の輸出量は前月から下方修正され 22.7 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 53.7 百万トンと、収穫面積及び単収が前年度より増加することから前年度と比べ 9.3%増、過去 5 年平均（48.2 百万トン）と比べても 11.4%増となる見込み。品種別には、ハード・レッド・ウインター（HRW）が 21.0 百万トン（前年度比 29.3%増）、ハード・レッド・スプリング（HRS）が 13.7 百万トン（同 8.0%増）、ホワイト小麦（WW）が 7.5 百万トン（同 17.7%増）、デュラム小麦（Durum）が 2.2 百万トン（同 34.9%増）と、前年度と比べ増加する一方で、ソフト・レッド・ウインター（SRW）は前作物のとうもろこし及び大豆の収穫が遅れ作付面積が減少したこと等を受け 9.3 百万トン（同 23.7%減）となる見込み。

同「Wheat Outlook」（2025.1.14）によれば、2025/26 年度の冬小麦の作付面積は 1,381 万ヘクタールと、カンザス州、オクラホマ州等で減少するものの、テキサス州、モンタナ州、ワシントン州等で増加することから、前年度（1,351 万ヘクタール）と比べ 2.2%増となる見込み。

同「Wheat Outlook」（2025.3.13）によれば、2025/26 年度の冬小麦の作柄を 2 月 2 日現在と 3 月 9 日現在で比較した場合、「良～やや良」の割合は、主要な生産州では、カンザス州 52%、オクラホマ州 46%と 2 月からわずかに改善したものの、テキサス州は 28%と大きく低下した。また、3 月 4 日現在、2025/26 年度の冬小麦生産の約 24%が干ばつ地域にあると推定されており、前月（2 月 4 日）から 1 ポイント増加したものの、干ばつのピークであった 2024 年 10 月の 60%からは大幅に改善している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、HRS、SRW 及び Durum の輸出量引下げを受け前月予測から 0.4 百万トン下方修正され 22.7 百万トンとなるものの、増産による輸出余力の増加に加え、EU、ロシア及びウクライナの輸出余力の減少等を受け、前年度と比べ 18.1%増。一方で過去 5 年平均（23.0 百万トン）と比べ 1.2%減となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～2025 年 1 月の輸出量は、1,397.4 万トンと前年同期（1,126.9 万トン）と比べ 24.0%増。国別にはメキシコ 251.4 万トン（18.0%）、日本 166.0 万トン（11.9%）、フィリピン 158.0 万トン（11.3%）の順となっている。一方、中国への輸出量は 15.3 万トン（1.1%）と大きく減少している。

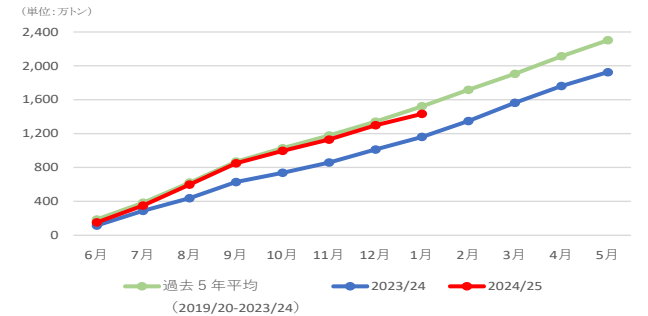
2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量の引下げ及び輸入量の引上げを受け前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 22.3 百万トンと、前年度と比べ 17.7%増となる見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年6月～25年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	44.9	49.1	53.7	-	9.3
消 費 量	30.3	30.2	31.4	-	4.1
うち飼料用	2.0	2.3	3.3	-	41.6
輸 出 量	20.7	19.2	22.7	▲ 0.4	18.1
輸 入 量	3.3	3.8	3.8	0.3	1.3
期末在庫量	15.5	19.0	22.3	0.7	17.7
期末在庫率	30.4%	38.4%	41.2%	1.5	2.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.36	15.01	15.57	-	3.7
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.45	-	5.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(11 March 2025)

図 米国産小麦の輸出量の推移（累計）



資料：USDA 「Wheat Data」(2025.3.12)をもとに農林水産省で作成

表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

2022/23年度 (2022年6月～2023年5月)				2023/24年度 (2023年6月～2024年5月)				2024/25年度 (2024年6月～2025年1月)			
国 名	輸出量	シェア		国 名	輸出量	シェア		国 名	輸出量	シェア	
メキシコ	365.4	18.0		メキシコ	325.8	17.4		メキシコ	251.4	18.0	
日本	206.1	10.2		フィリピン	274.5	14.7		日本	166.0	11.9	
フィリピン	204.1	10.1		中国	216.9	11.6		フィリピン	158.0	11.3	
中国	147.2	7.3		日本	197.1	10.5		韓国	150.2	10.7	
韓国	120.6	6.0		韓国	130.1	6.9		台湾	72.1	5.2	
ナイジェリア	81.9	4.0		台湾	110.5	5.9		タイ	60.8	4.4	
その他	901.7	44.5		その他	618.1	33.0		その他	538.9	38.6	
計	2,027.0	100.0		計	1,873.0	100.0		計	1,397.4	100.0	

資料：USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省
で作成

< カナダ > 2025/26 年度の作付意向面積は前年度から 2.6%増加の見込み（カナダ統計局）

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2025.3.21）によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく 35.0 百万トンと、干ばつの影響により減産となった前年度（32.9 百万トン）と比べ 6.1%増、過去 5 年平均（31.7 百万トン）と比べても 10.4%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 29.1 百万トンと、前年度（28.9 百万トン）と比べ 0.8%増、過去 5 年平均（26.8 百万トン）と比べても 8.7%増となり、史上最高の生産量となった 2013/14 年度に次ぐ史上 2 番目の生産量になる見込み。デュラム小麦も 5.9 百万トンと、前年度（4.1 百万トン）と比べ 43.6%増、過去 5 年平均（4.9 百万トン）と比べても 19.8%増となる見込み。

カナダ統計局「Principal field crop areas, 2025」（2025.3.12）によれば、2025/26 年度の実産面積は、1,111.9 万ヘクタールと、高品質小麦に対する世界的な強い需要を受け前年度（1,083.5 万ヘクタール）と比べ 2.6%増となる見込み。種類別には、春小麦が 785.9 万ヘクタールと前年度（766.6 万ヘクタール）と比べ 2.5%増、デュラム小麦が 257.7 万ヘクタールと前年度（257.5 万ヘクタール）と比べわずかに増加、冬小麦が 68.3 万ヘクタールと前年度（59.3 万ヘクタール）と比べ 15.1%増となる見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 26.2 百万トンと、前年度（25.3 百万トン）と比べ 3.3%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 21.3 百万トンと、増産となるものの、低品質な小麦が増加し飼料用消費量が増加すること等から前年度（21.8 百万トン）と比べ 2.4%減となる見込み。デュラム小麦は 4.9 百万トンと、生産量の回復による輸出余力の増加等を受け、前年度（3.5 百万トン）と比べ 38.1%増となる見込み。

カナダ穀物委員会（CGC）によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～2025 年 1 月の輸出量は、1,315.1 万トンと、前年同期（1,224.1 万トン）と比べ 7.4%増。種類別には、普通小麦が 1,033.3 万トンと、前年同期（1,065.5 万トン）と比べ 3.0%減となっており、国別にはインドネシア 117.2 万トン（11.3%）、日本 98.3 万トン（9.5%）、ペルー77.9 万トン（7.5%）の順。デュラム小麦は 281.9 万トンと、前年同期（158.6 万トン）と比べ 77.7%増となっており、国別にはイタリア 64.1 万トン（22.7%）、モロッコ 62.2 万トン（22.1%）、アルジェリア 51.4 万トン（18.2%）の順。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 4.4 百万トンと、前年度（4.6 百万トン）と比べ 3.9%減となる見込み。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	34.8	33.0	35.0 (35.0)	-	6.1
消 費 量	8.3	9.1	9.5 (9.1)	-	4.3
うち飼料用	3.2	4.0	4.3 (4.7)	-	7.0
輸 出 量	25.6	25.4	26.0 (26.2)	-	2.2
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	▲ 1.8
期末在庫量	5.6	4.6	4.6 (4.4)	-	0.2
期末在庫率	16.6%	13.3%	12.9% (12.5%)	-	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.10	10.70	10.65 (10.65)	-	▲ 0.5
単収(t/ha)	3.45	3.08	3.28 (3.28)	-	6.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)、
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(21 March 2025)

表 カナダ産小麦の作付面積の推移

(単位: 万ヘクタール)

	2023/24 年度	2024/25 年度	2025/26 年度	対前年度 増減率(%)
春小麦	789.0	766.6	785.9	2.5
デュラム小麦	244.2	257.5	257.7	0.05
冬小麦	61.5	59.3	68.3	15.1
小麦計	1,094.7	1,083.5	1,111.9	2.6

資料: カナダ統計局「Principal field crop areas, 2025」(2025.3.12)
をもとに農林水産省で作成

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

○普通小麦 (輸出量: 万トン)

2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年1月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	296.8	15.1%	中国	310.3	14.7%	インドネシア	117.2	11.3%
インドネシア	213.8	10.9%	インドネシア	251.9	11.9%	日本	98.3	9.5%
日本	167.3	8.5%	日本	173.9	8.2%	ペルー	77.9	7.5%
ペルー	148.3	7.5%	バングラデシュ	172.7	8.2%	コロンビア	71.3	6.9%
バングラデシュ	144.4	7.3%	ペルー	137.3	6.5%	米国	61.7	6.0%
その他	996.1	50.7%	その他	1,069.2	50.5%	その他	606.8	58.7%
計	1,966.6	100.0%	計	2,115.3	100.0%	計	1,033.3	100.0%

○デュラム小麦 (輸出量: 万トン)

2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年1月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
イタリア	121.0	23.8%	アルジェリア	89.3	26.0%	イタリア	64.1	22.7%
アルジェリア	120.8	23.8%	モロッコ	81.7	23.8%	モロッコ	62.2	22.1%
モロッコ	85.7	16.9%	米国	46.2	13.5%	アルジェリア	51.4	18.2%
米国	50.4	9.9%	イタリア	44.7	13.0%	米国	28.0	9.9%
チュニジア	32.5	6.4%	日本	21.2	6.2%	スペイン	16.9	6.0%
その他	96.8	19.1%	その他	60.4	17.6%	その他	59.4	21.1%
計	507.3	100.0%	計	343.5	100.0%	計	281.9	100.0%

資料: CGC のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 豪州 ＞ 2024/25 年度の生産量は上方修正され 34.1 百万トンの見込み（ABARES）

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局（ABARES）「Australian Crop Report」（2025.3.4）によれば、2024/25 年度の実生産量は前回予測（2024.12.3）から 2.2 百万トン上方修正され 34.1 百万トンと、前年度（26.0 百万トン）と比べ 31.4%増、過去 5 年平均（29.8 百万トン）と比べても 14.4%増となり史上 3 番目の生産量となる見込み。

州別の生産量は、ニューサウスウェールズ州（NSW 州）が 12.9 百万トン（前年度比 81.8%増）、クイーンズランド州（QLD 州）が 2.2 百万トン（同 106.5%増）とシーズンを通して十分な降雨に恵まれたことから前年度と比べ大きく増加する見込み。また、ウェスタンオーストラリア州（WA 州）についても 12.7 百万トン（同 64.3%増）と生育後期の降雨により前年度から増加する見込み。一方、サウスオーストラリア州（SA 州）は 2.8 百万トン（同 42.3%減）、ビクトリア州（VIC 州）も 3.5 百万トン（同 32.7%減）とシーズンを通して降水量が少なかったことや 9 月に霜が降りた影響等により前年度から減少する見込み。

USDA「World Agricultural Production」（2025.3.11）によれば、2024/25 年度の実生産量は、34.1 百万トンと、収穫が進むにつれて収穫量は予想を上回り史上 3 番目となった。NSW 州は土壌水分が良好で生育に良い影響を与えた。一方で WA 州、SA 州及び VIC 州は乾燥した状態からシーズンが始まったが、このうち WA 州については、生育期間中に降雨量が改善したことから収穫量が増加した。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2024/25 年度の輸出量は生産量の引上げ等を受け前回予測から 1.5 百万トン上方修正され 23.4 百万トンと、前年度（19.7 百万トン）と比べ 18.7%増、過去 5 年平均（22.4 百万トン）と比べても 4.7%増となる見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は生産量の引上げ等を受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 26.0 百万トンと、前年度（19.8 百万トン）と比べ 31.0%増、過去 5 年平均（22.4 百万トン）と比べても 14.4%増となる見込み。

ABARES によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 1 月の輸出量は 570.8 万トンと、前年同期（654.2 万トン）と比べ 12.7%減となっている。国別には、インドネシア 102.5 万トン（18.0%）、フィリピン 91.9 万トン（16.1%）、ベトナム 50.4 万トン（8.8%）の順。

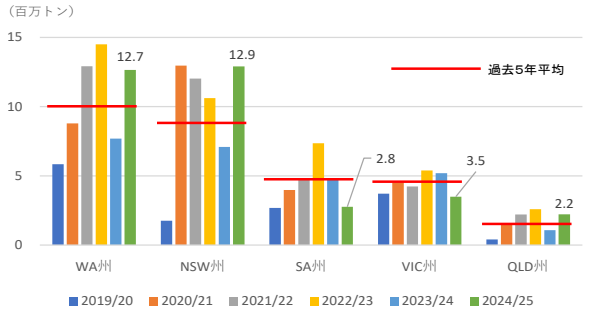
2024/25 年度の期末在庫量は生産量の引上げ等を受け前回予測から 0.8 百万トン上方修正され 4.8 百万トンと、前年度（2.9 百万トン）と比べ 69.1%増となる見込み。

小麦－豪州(冬小麦を主に栽培)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予備値、() はABARES			対前年度 増減率(%)
			前月予測 からの変更	前月予測 からの変更	前月予測 からの変更	
生 産 量	40.6	26.0	34.1 (34.1)	2.1	31.4	
消 費 量	8.0	7.8	8.0 (8.8)	0.5	2.6	
うち飼料用	4.5	4.3	4.5	0.5	4.7	
輸 出 量	31.8	19.8	26.0 (23.4)	1.0	31.0	
輸 入 量	0.2	0.2	0.2	-	▲ 9.1	
期末在庫量	4.4	2.9	3.2 (4.8)	0.6	10.7	
期末在庫率	11.0%	10.5%	9.5% (15.0%)	1.4	▲ 1.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	13.05	12.37	13.06 (13.06)	0.06	5.6	
単収(t/ha)	3.11	2.10	2.61 (2.61)	0.15	24.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
ABARES「Australian Crop Report」(4 March 2025)

図 豪州の小麦の州別生産量の推移



資料：ABARES「Australian Crop Report」(2025.3.4) をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

2022/23年度 (2022年10月～2023年9月)		2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)		2024/25年度 (2024年10月～2025年1月)	
国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア
中国	759.2 23.9	中国	375.5 19.0	インドネシア	102.5 18.0
インドネシア	502.9 15.8	インドネシア	323.5 16.4	フィリピン	91.9 16.1
フィリピン	307.6 9.7	フィリピン	233.6 11.8	ベトナム	50.4 8.8
ベトナム	285.5 9.0	イエメン	152.2 7.7	イエメン	47.5 8.3
韓国	270.0 8.5	日本	120.6 6.1	韓国	44.5 7.8
タイ	199.2 6.3	韓国	119.4 6.1	日本	40.9 7.2
その他	855.7 26.9	その他	648.5 32.9	その他	193.2 33.8
計	3,180.0 100.0	計	1,973.3 100.0	計	570.8 100.0

資料：ABARES「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 119.0 百万トンの見込み (EC)

【生育・生産状況】欧州委員会 (EC) 「EU Cereals Balance Sheets」(2025.2.27) によれば、2024/25 年度の生産量は、収穫面積の引下げを受け前月予測から 0.07 百万トン下方修正され 119.0 百万トンとなる見込み。2023 年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、生育期間を通じた降雨過多等により収穫面積及び単収が減少することを受け、前年度 (132.6 百万トン) と比べ 10.3%減、過去 5 年平均 (133.4 百万トン) と比べても 10.8%減となる見込み。このうち、普通小麦は前月予測から 0.06 百万トン下方修正され 111.8 百万トンと、前年度と比べ 10.7%減、過去 5 年平均と比べても 11.2%減となる見込み。国別にはフランスが降雨過多等を受け前年度比 27.0%減の 25.4 百万トン、ドイツも同 14.4%減の 18.1 百万トンとなる見込み。デュラム小麦は前月予測からわずかに下方修正され 7.2 百万トンと、前年度と比べ 2.7%減、過去 5 年平均と比べても 4.4%減となる見込み。国別にはイタリアが前年度比 5.1%減の 3.5 百万トン、フランスも同 6.3%減の 1.2 百万トンとなる一方、スペインが干ばつからの回復により同 64.8%増の 0.7 百万トンとなる見込み。

現地情報会社によれば、2 月 24 日時点で 2025/26 年度の冬作物は大半が平年並みから良好となっている。【貿易情報・その他】EC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 25.7 百万トンと、減産を受け前年度 (36.4 百万トン) と比べ 29.4%減となる見込み。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2025.3.11) によれば、2024/25 年度の実生産量は 2007/08 年度 (120.8 百万トン) 以来最低となっており、2024/25 年度の輸出量は 27.0 百万トンと、6 年ぶりの低水準となる見込み。EU の主要輸出国であるフランスの減産によりフランスの輸出シェアが減少する一方、ルーマニアやブルガリアの輸出シェアが増加している。EC によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～12 月の輸出量は、1,387.0 万トンと、前年同期 (1,861.5 万トン) と比べ 25.5%減。種類別には、普通小麦が 1,347.2 万トンと、前年度と比べ 26.5%減となる一方、デュラム小麦は 39.8 万トンと、ルーマニアやギリシャ等の輸出量が増加したことから同 41.7%増。2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 10.0 百万トンと、ウクライナからの輸入が減少すること等から前年度 (12.1 百万トン) と比べ 17.3%減となる見込み。2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～12 月の輸入量は、544.8 万トンと、前年同期 (640.0 万トン) と比べ 14.9%減。種類別には、普通小麦が 462.1 万トンと、前年度と比べ 4.2%減。デュラム小麦も 82.7 万トンと、同 47.6%減。

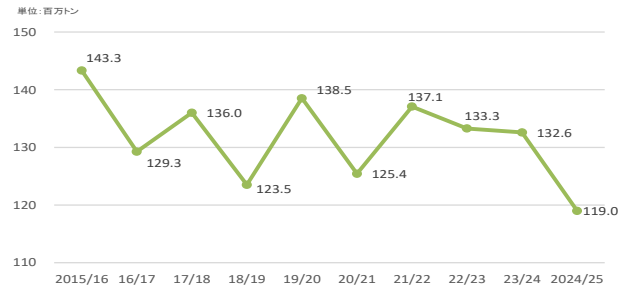
2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引下げ等を受け前月予測から 0.07 百万トン下方修正され 10.6 百万トンと、供給量の減少から前年度 (18.0 百万トン) と比べ 40.9%減となる見込み。

小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、() はEC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	134.5	135.1	121.3 (119.0)	-	▲ 10.2
消 費 量	109.0	110.5	109.8 (110.6)	0.5	▲ 0.7
うち飼料用	45.0	46.5	45.5 (45.8)	0.5	▲ 2.2
輸 出 量	35.1	38.0	27.0 (25.7)	▲ 1.0	▲ 28.9
輸 入 量	12.2	12.7	10.5 (10.0)	▲ 0.5	▲ 17.0
期末在庫量	16.3	15.5	10.6 (10.6)	-	▲ 31.9
期末在庫率	11.3%	10.5%	7.7% (7.8%)	0.03	▲ 2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.44	24.34	22.83 (22.23)	-	▲ 6.2
単収(t/ha)	5.50	5.55	5.31 (5.35)	-	▲ 4.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
EC 「EU Cereals Balance Sheets」(27 February 2025)

図 EU27 の小麦生産量の推移



資料：EC 「EU cereals production, area and yield」(2025.2.27)
をもとに農林水産省で作成

表 EU27 の小麦の輸出量及び輸入量

0輸出量					0輸入量				
国名	2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		2024/25年度 (2024年7月～12月)		国名	2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		2024/25年度 (2024年7月～12月)	
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)		輸入量 (万トン)	シェア (%)	輸入量 (万トン)	シェア (%)
ナイジェリア	348.9	9.6	177.7	12.8	ウクライナ	648.7	53.6	293.4	53.9
アルジェリア	396.7	10.9	167.6	12.1	カナダ	138.5	11.4	107.7	19.8
エジプト	178.3	4.9	122.2	8.8	モルドバ	73.6	6.1	37.3	6.8
モロッコ	489.1	13.5	120.4	8.7	米国	34.2	2.8	32.8	6.0
英国	139.2	3.8	114.3	8.2	英国	52.1	4.3	21.6	4.0
アンゴラ	82.6	2.3	54.5	3.9	トルコ	76.8	6.3	20.7	3.8
その他	1,999.5	55.0	630.3	45.4	その他	186.8	15.4	31.3	5.8
合計	3,634.3	100.0	1,387.0	100.0	合計	1,210.6	100.0	544.8	100.0

資料：EC 「EU trade for cereals」(2025.2.27)をもとに農林水産
省で作成

＜ ロシア ＞ 2024/25 年度の輸出量は前月から下方修正され 45.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量（クリミア地域分を含まず）は、単収の引上げを受け前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 81.6 百万トンとなるものの、霜害と高温乾燥により前年度と比べ 10.8%減、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べても 2.3%減となる見込み。種類別には、冬小麦が収穫面積及び単収の引下げを受け前月予測から 1.7 百万トン下方修正され 55.8 百万トンと、前年度（64.0 百万トン）に比べ 12.8%減。春小麦は単収の引上げを受け前月予測から 1.8 百万トン上方修正され 25.8 百万トンとなるものの、前年度（27.5 百万トン）と比べ 6.2%減となる見込み。

ロシア気象センターによれば、冬小麦の主要産地である欧州部では、雪が少なく暖冬であったことから秋播き作物は冬の間も生育が続き、越冬開始前よりも作物の状態が改善した。一方で降雨・降雪不足による土壌水分の不足は今後の作物の生育に悪影響を与える可能性がある。

【貿易情報・その他】ロシア連邦政府は、2024 年 12 月 20 日、2024/25 年度後半（2025 年 2 月 15 日～6 月 30 日）に小麦及びメスリンに設定される輸出枠を 1,060 万トン（前年度 2,900 万トン）とすることを発表した。USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.1.10）によれば、ロシアは 2024/25 年度の供給量が大きく減少したが、2024/25 年度前半（2024 年 7 月～12 月）で 29.4 百万トンを輸出し、史上最高の輸出量である前年同期（27.7 百万トン）を上回った。12 月 1 日現在のロシアの農場の小麦在庫は前年比 25%減となり、政府は、ロシア国内への供給を維持し、食料品価格の上昇を抑制するため、2024/25 年度後半の輸出枠を過去 5 年間で最小となる 1,060 万トンに設定した。2025 年 2 月以降、ロシアの輸出は減速する見込み。USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、1 月以降の低調な輸出を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 45.0 百万トンと、史上最高の輸出量となった前年度と比べ 18.9%減となるものの、過去 5 年平均（42.4 百万トン）と比べ 6.1%増と史上 3 番目の輸出量となる見込み。

現地情報会社によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 2 月の輸出量は 3,290.8 万トンと、前年同期（3,534.5 万トン）と比べ 6.9%減となっている。国別には、エジプト 701.7 万トン（21.3%）、バングラデシュ 234.0 万トン（7.1%）、トルコ 208.5 万トン（6.3%）の順。なお、2 月のみの輸出量は 184.5 万トンで前年同月（425.1 万トン）と比べ 56.6%減と、輸出量が大きく減速している。

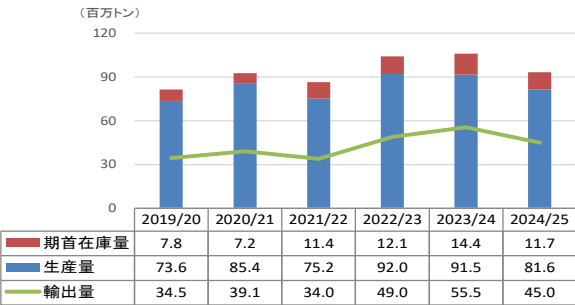
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引上げ及び輸出量の引下げを受け前月予測から 0.6 百万トン上方修正され 10.3 百万トンとなるものの、前年度と比べ 11.5%減となる見込み。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	92.0	91.5	81.6 (81.3)	0.1	▲ 10.8
消費量	41.0	39.0	38.3 (39.0)	-	▲ 1.9
うち飼料用	18.0	16.0	15.5 (16.0)	-	▲ 3.1
輸出量	49.0	55.5	45.0 (43.7)	▲ 0.5	▲ 18.9
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.4)	-	-
期末在庫量	14.4	11.7	10.3 (9.7)	0.6	▲ 11.5
期末在庫率	16.0%	12.4%	12.4% (11.7%)	0.8	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	27.80 (27.73)	▲ 0.20	▲ 3.6
単収(t/ha)	3.17	3.17	2.94 (2.93)	0.03	▲ 7.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC 「Grain Market Report」(20 February 2025)

図 ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」（2025. 3. 11）をもとに農林水産省で作成

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		2024/25年度 (2024年7月～2025年2月)		2024/25年度 (2025年2月)	
国 名	輸出量	国 名	輸出量	国 名	輸出量
エジプト	868.3	エジプト	701.7	エジプト	89.4
トルコ	691.9	バングラデシュ	234.0	サウジアラビア	13.4
バングラデシュ	350.2	トルコ	208.5	ナイジェリア	9.3
アルジェリア	236.8	アルジェリア	166.3	リビア	8.9
サウジアラビア	224.8	ケニア	139.9	タンザニア	8.7
カザフスタン	222.2	ナイジェリア	132.5	イスラエル	8.0
パキスタン	213.0	サウジアラビア	119.6	トルコ	6.3
その他	2,608.8	その他	1,588.3	その他	40.5
計	5,416.0	計	3,290.8	計	184.5

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2024/25 年度の生産量は前月から上方修正され 23.4 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25年度の生産量（クリミア地域分を含む）は、単収の引上げを受け前月予測から0.5百万トン上方修正され23.4百万トンと、前年度と比べ1.7%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べ16.2%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2月初旬の数日は温暖であり、以降は平年比で寒冷となり雪やみぞれが降った地域もあったものの、降水量は全体的に不足している。冬小麦を含む2025/26年度の秋播き作物だけではなく、今後の春小麦の播種にも影響することから更なる降雨が必要となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく15.5百万トンと、期首在庫量の減少等により前年度と比べ16.6%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べても14.4%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2024年9月3日、ウクライナ農業政策食料省は穀物市場関係者と覚書の附属書を締結し、2024/25年度の小麦の輸出上限は1,620万トンに設定された。

また、2025年2月の情報によれば、ハンガリー、スロバキア、ルーマニア及びブルガリアの農業相は、EUが2022年6月に導入したウクライナ産品に対する輸入関税と輸入割当の停止措置の期限（2025年6月5日）後にウクライナ農産品に対する輸入割当の復活を要請する書簡を共同で欧州委員会に送付した。

ウクライナ税関庁によれば、2024/25年度のうち2024年7月～2025年2月の輸出量は1,193.6万トンと、前年同期（1,177.3万トン）と比べ1.4%増となっており、2024/25年度の輸出上限1,620万トンに対し73.7%を輸出している。国別には、スペイン290.7万トン（24.4%）、インドネシア155.5万トン（13.0%）、エジプト120.4万トン（10.1%）の順となっており、前年度同様スペインが首位である一方、アルジェリアに加え、インドネシア、ベトナム、タイといったアジア諸国のシェアが増加している。現地情報会社によれば、シェア増加の要因は、アルジェリアは同国市場で大きなシェアを占めていたフランスの小麦生産量が大きく減少したこと、アジア諸国は飼料穀物の需要が増加していることやルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する臨時回廊により遠方への輸出が安定してきたことが挙げられる。

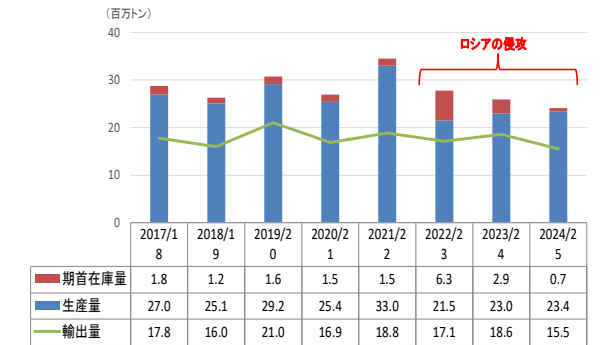
USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、生産量の引上げ等を受け前月予測から0.4百万トン上方修正され1.7百万トンと、前年度と比べ138.0%増となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	21.5	23.0	23.4 (25.4)	0.5	1.7
消 費 量	7.8	6.7	7.0 (8.3)	0.1	4.5
うち飼料用	3.0	2.0	2.3 (1.4)	0.1	15.0
輸 出 量	17.1	18.6	15.5 (17.4)	-	▲ 16.6
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	33.3
期末在庫量	2.9	0.7	1.7 (0.7)	0.4	138.0
期末在庫率	11.8%	2.8%	7.5% (2.6%)	1.8	4.7

(参考)
収穫面積(百万ha) 5.60 5.01 5.20 (6.17)
単収(t/ha) 3.84 4.59 4.50 (4.11)
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC 「Grain Market Report」(20 February 2025)

図 ウクライナの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2025.3.11)をもちに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年2月)			2024/25年度 (2025年2月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	589.9	32.0	スペイン	290.7	24.4	スペイン	32.6	27.7
エジプト	172.1	9.4	インドネシア	155.5	13.0	エジプト	24.8	21.0
インドネシア	151.5	8.2	エジプト	120.4	10.1	アルジェリア	19.0	16.1
トルコ	107.8	5.9	アルジェリア	113.3	9.5	イタリア	18.2	15.4
ルーマニア	100.1	5.4	ベトナム	88.4	7.4	チュニジア	9.4	8.0
パキスタン	81.4	4.4	タイ	64.1	5.4	イエメン	7.2	6.1
ベトナム	75.1	4.1	イタリア	62.6	5.2	イスラエル	2.5	2.1
バングラデシュ	73.7	4.0	チュニジア	61.5	5.2	ギリシャ	1.2	1.0
イタリア	67.7	3.7	バングラデシュ	52.2	4.4	レバノン	1.2	1.0
アルジェリア	63.3	3.4	イエメン	36.9	3.1	ドイツ	0.5	0.4
その他	358.0	19.5	その他	148.0	12.4	その他	1.3	1.1
合計	1,840.6	100.0	合計	1,193.6	100.0	合計	117.9	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の輸入量は前月から下方修正され 6.5 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 140.1 百万トンと、前年度より収穫面積は減少するものの、単収が増加することから前年度と比べ 2.6%増、過去 5 年平均（135.8 百万トン）と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国農業農村部「農産品供需形成分析月報 2025 年 1 月号」によれば、2025/26 年度冬小麦の主要生産地の気象条件は、冬小麦が無事に越冬するために有利な条件となっている。1 月 20 日時点の生育が良好な小麦の割合は 83.6%と、平年に比べ 1.6 ポイント高くなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 151.0 百万トンと、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24 年度に飼料用グレードの国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから、前年度と比べ 1.6%減となるものの、過去 5 年平均（146.1 百万トン）と比べ 3.4%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、低調な輸入を受け前月予測から 1.5 百万トン下方修正され 6.5 百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和したこと等から、前年度と比べ 52.3%減となり 2019/20 年度以来の低水準の輸入量となる見込み。

2025 年 3 月 4 日、中国国务院関税税則委員会は、米国産農水産物の輸入に関し追加関税を賦課すると発表した。小麦について 15%の追加関税が賦課され 3 月 10 日から適用される。なお、3 月 10 日より前に仕出し国から出荷され 3 月 10 日から 4 月 12 日までに輸入される場合、追加関税は賦課されない。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～12 月までの輸入量は 190.0 万トンと、増産を受け前年同期（408.8 万トン）と比べ 53.5%減となっている。国別には、カナダ 66.4 万トン（国別シェア 35.0%）、米国 46.2 万トン（同 24.3%）、カザフスタン 28.4 万トン（同 15.0%）の順となっている。豪州は 2023/24 年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の国別シェア 46.0%から同 10.7%と大きくシェアを減らしている一方で、米国、カザフスタン及びロシアが大きくシェアを伸ばしている。

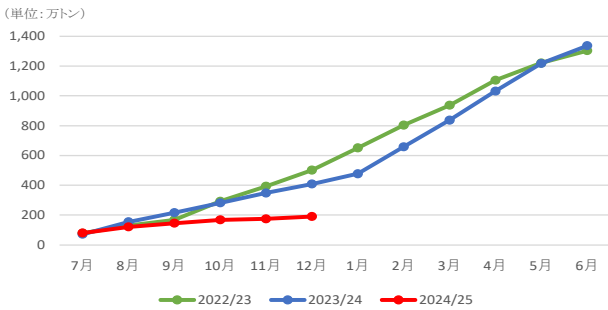
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受け前月予測から 1.5 百万トン下方修正され 129.1 百万トンと、前年度と比べ 4.0%減となる見込み。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
			予測値、()	はIGC		
生 産 量	137.7	136.6	140.1	(140.1)	-	2.6
消 費 量	148.0	153.5	151.0	(146.8)	-	▲ 1.6
うち飼料用	33.0	37.0	33.0	(28.0)	-	▲ 10.8
輸 出 量	1.0	1.0	1.0	(1.2)	-	▲ 3.8
輸 入 量	13.3	13.6	6.5	(7.7)	▲ 1.5	▲ 52.3
期末在庫量	138.8	134.5	129.1	(140.0)	▲ 1.5	▲ 4.0
期末在庫率	93.2%	87.0%	84.9%	(94.6%)	▲ 1.0	▲ 2.1
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.59	(23.59)	-	▲ 0.2
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.94	(5.94)	-	2.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC 「Grain Market Report」(20 February 2025)

図 中国の小麦輸入量の推移（累計）



資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

国 名	2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		2023/24年度 (2023年7月～12月)		2024/25年度 (2024年7月～12月)	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
カナダ	307.8	23.0	121.6	29.7	66.4	35.0
米国	181.8	13.6	37.8	9.2	46.2	24.3
カザフスタン	66.8	5.0	36.1	8.8	28.4	15.0
ロシア	43.0	3.2	22.8	5.6	25.2	13.3
豪州	503.5	37.7	187.9	46.0	20.3	10.7
日本	3.3	0.2	1.8	0.4	2.6	1.3
フランス	230.1	17.2	0.4	0.1	0.7	0.4
その他	0.6	0.0	0.5	0.1	0.1	0.1
計	1,336.7	100.0	408.8	100.0	190.0	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量

前年度比

前月比

・南アフリカ、メキシコ等で下方修正されたものの、インド、ロシア、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

消費量

前年度比

前月比

・メキシコ等で下方修正されたものの、インド、ブラジル、トルコ、ベトナム等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量

前年度比

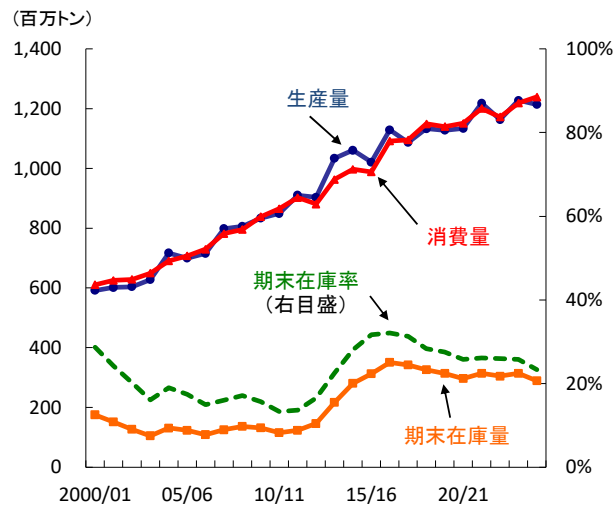
前月比

・ブラジル、南アフリカで下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量

前年度比

前月比



資料：USDA「PS&D」(2025. 3. 11)をもとに農林水産省にて作成。

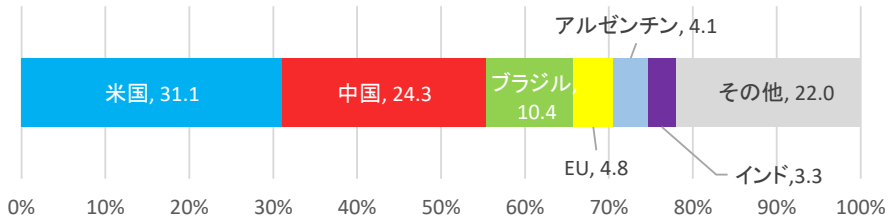
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

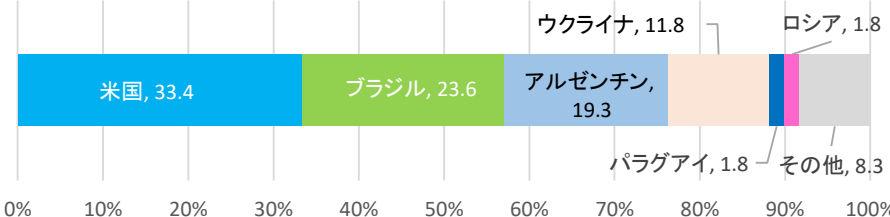
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,163.3	1,228.1	1,214.2	1.7	▲ 1.1
消 費 量	1,172.4	1,219.0	1,239.2	1.2	1.7
うち飼料用	735.1	772.8	779.4	1.9	0.9
輸 出 量	180.4	193.6	186.4	▲ 2.9	▲ 3.7
輸 入 量	173.4	197.8	180.3	▲ 0.9	▲ 8.8
期末在庫量	304.8	314.0	288.9	▲ 1.4	▲ 8.0
期末在庫率	26.0%	25.8%	23.3%	▲ 0.1	▲ 2.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 March 2025)

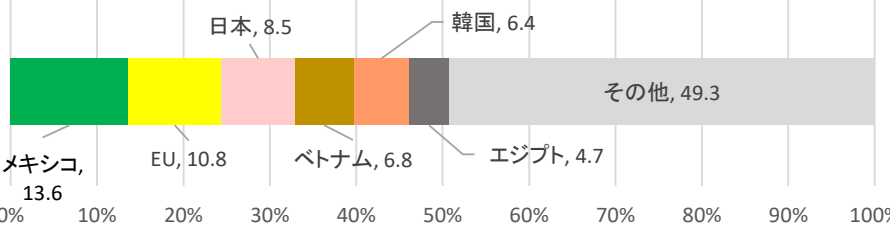
○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,214.2 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸出量(186.4 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸入量(180.3 百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は史上最高の前年度から 3.1%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少（対前年度比 4.2%減）を受け、史上最高の前年度より 3.1%減の 377.6 百万トンとなったものの、史上 4 番目に高い見通し。収穫面積の減少は、作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作で価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたことによる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の減少を受けて前年度に比べ 0.1%減の 321.7 百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前年度より 6.9%増の 62.2 百万トンの見込み。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2025.3.11) によれば、米国産の輸出価格は、3 月 7 日現在、米国産の豊富な供給見込みを受けて前月から 13 ドル/トン下落し、213 ドル/トンと、ブラジル産 (226 ドル/トン)、アルゼンチン産 (219 ドル/トン) を下回り、価格競争力を有している。なお、2024 年 9 月～2025 年 2 月の輸出量は 2,751.4 万トンと、前年同期の 2,069.8 万トンより 32.9%増。主な輸出先は、メキシコ 988.3 万トン（国別シェア 35.9%）、日本 488.0 万トン（同 17.7%）、コロンビア 360.2 万トン（同 13.1%）の順。

同「Grain: World Markets and Trade」(2025.3.11) によれば、米国の主要な輸出相手国であるコロンビアの 2024/25 年度の総輸入量は 6.8 百万トンと史上最高の見込み。米国産はブラジル産、アルゼンチン産に対して価格競争力を有しているため、2024/25 年度の米国産のコロンビア市場におけるシェアは増加するとみられる。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 12.7%減の 39.1 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 1.6 ポイント減少し 10.2%と、過去 5 年平均 (10.7%) を下回っている。

とうもろこし—米国

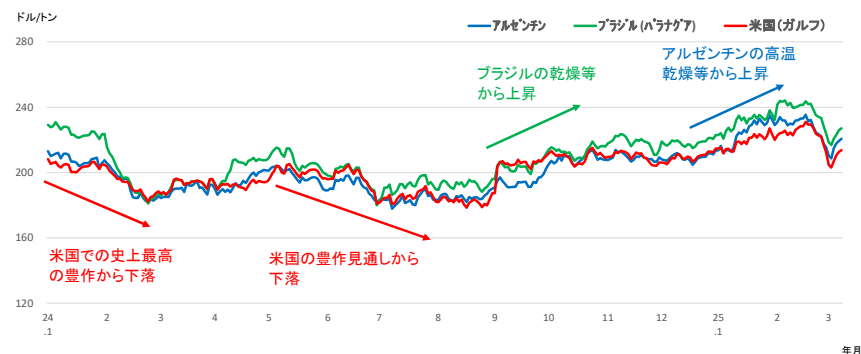
(概ね 4～5 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	346.7	389.7	377.6	-	▲ 3.1
消費量	305.9	321.9	321.7	-	▲ 0.1
うち飼料用	139.4	147.5	146.7	-	▲ 0.5
エタノール用等	131.5	139.1	139.7	-	0.4
輸 出 量	42.2	58.2	62.2	-	6.9
輸 入 量	1.0	0.7	0.6	-	▲ 11.1
期末在庫量	34.6	44.8	39.1	-	▲ 12.7
期末在庫率	9.9%	11.8%	10.2%	-	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.55	-	▲ 4.2
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.26	-	1.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)

図 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 5.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、収穫面積の増加を受けて前年度より 5.9%増の 126.0 百万トンと、史上 2 番目に高い生産量となる見込み。

なお、2023/24 年度の実産量は、単収の引下げを受けて前月予測から 3.0 百万トン下方修正され、史上最高の 2022/23 年度から 13.1%減の 119.0 百万トンの見込み。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2025.3.13) によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 6.1%増の 122.8 百万トンの見込み。夏とうもろこし (ブラジルのクロップカレンダー (図) 参照) は、主要生産地の南部での単収増等を受けて、前年度比 8.3%増の 24.9 百万トンの見込み。3 月上旬現在、作付はほぼ完了。南部リオ・グランデ・ド・スール州の収穫進捗率は 76%と、前年同期 (68%) を上回っている。一方、冬とうもろこしは、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度比 5.6%増の 97.9 百万トンの見込み。3 月上旬現在、作付進捗率は 70%と、前年同期 (74%) を下回っているものの、2 月の降雨の減少を受けて急速に進展した。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」 (2025.3.11) によれば、3 月上旬、冬とうもろこしの主要生産地の中西部では降雨があり、冬とうもろこしの生育に好影響を与えている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用消費の引上げを受けて前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、生産施設への投資によるエタノールの増産見込みを受けて前年度から 3.5%増の 88.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、中国向けの輸出実績が当初予想を下回ったことを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正されたものの、増産を受けて前年度より 14.9%増の 44.0 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2023/24 年度 (2024 年 3 月～2025 年 2 月) の輸出量は 3,819.4 万トンと、史上最高の増産となった 2022/23 年度より減産したことから前年度 (5,404.3 万トン) 比 29.3%減。内訳は、エジプト 601.2 万トン (国別シェア 15.7%)、イラン 536.9 万トン (同 14.1%)、ベトナム 450.9 万トン (同 11.8%) の順。

とうもろこしーブラジル

(夏とうもろこしは、概ね 8～翌年 1 月に作付けされ、2～4 月に収穫される。
冬とうもろこしは、大豆収穫後の概ね 1～3 月に作付けされ、6～10 月に収穫される。)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)			
			予測値、() はCONAB		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	137.0	119.0	126.0	(122.8)	-	5.9
消 費 量	78.0	85.0	88.0	(87.0)	0.5	3.5
うち飼料用	61.5	63.5	64.5	...	0.5	1.6
輸 出 量	54.3	38.3	44.0	(34.0)	▲ 2.0	14.9
輸 入 量	1.3	1.7	1.5	(1.7)	-	▲ 12.8
期末在庫量	10.0	7.5	3.0	(5.5)	0.1	▲ 60.3
期末在庫率	7.6%	6.1%	2.2%	(4.6%)	0.1	▲ 3.8
(参考)						
収穫面積(百万ha)	22.40	21.65	22.30	(21.14)	-	3.0
単収(t/ha)	6.12	5.50	5.65	(5.81)	-	2.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 March 2025)
CONAB 「Graos」 (13 March 2025)

図 ブラジルのクロップカレンダー (中部から南部)

2024/25年度の夏とうもろこしの作付けは、2024年9月以降、順次開始。
冬とうもろこしの作付けは、2025年1月以降、大豆の収穫後に開始。

2024/25年度	2024年				2025年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール 州等)	作付 3.7(百万ha)				収穫 24.9(百万t) → 収穫夏冬作計 122.8百万t								
冬とうもろこし (マツ・グロソソ州、 パラナ州等)	作付面積夏冬作計 21.1百万ha ←				作付 17.4(百万ha) 収穫 97.9(百万t)								
大豆 (マツ・グロソソ州、 パラナ州等)	作付 47.5(百万ha)				大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし作付け 収穫 167.4(百万t)								

資料：CONAB 「Graos」 (2025.3.13) をもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.0%減、過去 5 年平均（49.9 百万トン）より 0.2%増の 50.0 百万トンの見込み。前年度からの減産は、病害虫のヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆への作付けのシフト等から収穫面積が減少したことによるとみられる。

なお、USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、収穫面積の引上げを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、干ばつにより大幅に減産した 2022/23 年度より 37.8%増の 51.0 百万トンの見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2025.3.11）によれば、3 月上旬、主要農業生産地域では、降雨を受けて、未成熟の作物の生育に好影響を与えた一方、既に成熟していた早植え作物の乾燥と収穫が遅れたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、食用等消費の増加を受けて前年度から 0.4%増の 14.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、減産を受けて、前年度より 1.4%減の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2023/24 年度のうち 2024 年 3 月～2025 年 1 月の輸出量は 3,268.7 万トンで、2022/23 年度の減産から回復したことを受け、前年同期（2,060.7 万トン）比で 58.6%増。内訳は、ベトナム 638.1 万トン（国別シェア 18.4%）、ペルー 405.0 万トン（同 11.7%）、マレーシア 316.2 万トン（同 9.1%）の順。

アルゼンチン政府は、2024 年 5 月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。また、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、これを継続していたが、2025 年 1 月 25 日、1 月 27 日～6 月 30 日まで一時的にとうもろこしの輸出税を 9.5%に引き下げると発表した。

とうもろこしーアルゼンチン

（早植えとうもろこしは、概ね 9 月後半～12 月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、概ね 12 月前半～翌年 2 月前半に作付けされる。概ね 3～8 月に収穫される。）

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25（25年3月～26年2月）			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	37.0	51.0	50.0 (53.0)	-	▲ 2.0	
消 費 量	14.2	14.3	14.3 (20.2)	-	0.4	
うち飼料用	10.0	10.0	10.0 (15.1)	-	-	
輸 出 量	25.2	36.5	36.0 (33.0)	-	▲ 1.4	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0	
期末在庫量	2.3	2.6	2.3 (1.8)	▲ 0.5	▲ 11.6	
期末在庫率	5.9%	5.1%	4.6% (3.4%)	▲ 1.0	▲ 0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.20	7.78	6.40 (7.70)	-	▲ 17.7	
単収(t/ha)	5.14	6.56	7.81 (6.88)	-	19.1	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC「Grain Market Report」(20 February 2025)

写真 北部サンタフェ州の早植えとうもろこしの圃場風景
(2025 年 2 月 24 日撮影)



当圃場のとうもろこしは 2024 年 10 月に作付けられ、現在は
完熟期にあり、水分の減少が始まっている。

撮影者：José Daniel Peloni

＜ ウクライナ ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から 17.5%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、直近の収穫結果を受けて前月予測から 0.3 百万トン上方修正されたものの、前年度より 17.5%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 35.9%減の 26.8 百万トンとなる見通し。収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.4%減）するとともに、7 月以降の高温乾燥の継続を受けて豊作の前年度から単収も減少（対前年度比 15.5%減）することにより、減産となる見込み。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用消費の引上げを受けて前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、前年度から 4.0%増の 5.2 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、減産により前年度から 25.4%減の 22.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 2 月の輸出量は 1,174.0 万トンと、前年同期（2,947.0 万トン）より 60.2%減。輸出先国は、トルコ 210.8 万トン（18.0%）、スペイン 200.7 万トン（17.1%）、イタリア 181.2 万トン（15.4%）の順。時期別には、2024 年 10～11 月の輸出量は 447.0 万トンと前年同期比で 28.0%増の一方、2024 年 12 月～2025 年 2 月の輸出量は 727.1 万トンと前年同期比で 26.0%減。

ウクライナ政府は 2024 年 12 月 1 日から輸出許可制度を廃止し、輸出安全保障制度を導入した。当該制度では、最低輸出価格の設定、付加価値税を納税した事業者のみへの輸出許可、輸出業者の管理のため銀行及び税務当局との間での電子データ情報の交換が定められている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引上げを受けて前月予測から 0.1 百万トン上方修正されたものの、減産による供給減から前年度より 30.8%減、侵攻前の 5 か年平均より 70.7%減の 0.7 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前月予測から 0.4 ポイント上方修正されたものの、前年度から 0.4 ポイント減の 2.7%と、2020/21 年度以来の低水準となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

（概ね 4～5 月に作付けされ、8～11 月に収穫される。）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25（24年10月～25年9月）			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	27.0	32.5	26.8	(26.5)	0.3	▲ 17.5
消 費 量	4.7	5.0	5.2	(4.7)	0.2	4.0
うち飼料用	3.8	4.0	4.2	(3.3)	0.2	5.0
輸 出 量	27.1	29.5	22.0	(22.2)	-	▲ 25.4
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	100.0
期末在庫量	3.0	1.1	0.7	(0.7)	0.1	▲ 30.8
期末在庫率	9.4%	3.1%	2.7%	(2.7%)	0.4	▲ 0.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)	4.05	4.20	4.10	(4.00)	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	6.67	7.74	6.54	(6.62)	0.08	▲ 15.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC「Grain Market Report」(20 February 2025)

表 ウクライナのとうもろこし輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：％）

2022/23年度 (2022年10月～2023年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年2月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	563.3	20.7	スペイン	617.4	21.0	トルコ	210.8	18.0
ルーマニア	392.7	14.4	中国	461.9	15.7	スペイン	200.7	17.1
スペイン	291.6	10.7	エジプト	361.9	12.3	イタリア	181.2	15.4
イタリア	236.7	8.7	オランダ	277.7	9.4	オランダ	136.2	11.6
エジプト	224.5	8.3	イタリア	253.0	8.6	エジプト	112.4	9.6
その他	1,012.4	37.2	その他	975.1	33.1	その他	332.7	28.3
合計	2,721.2	100.0	合計	2,947.0	100.0	合計	1,174.0	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受けて、前年度より 2.1%増の 294.9 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024 年の生産量は前年より 2.1%増の 294.9 百万トンとなる見込み。作付面積が 4,474 万ヘクタールと前年より 1.2%増加し、単収も 6.59 トン/ヘクタールと、前年より 0.9%増加したことによる。なお、一部地域で洪水や干ばつ、台風等の被害を受けたものの、大半では気象条件は良好であり、生育に有利に働いたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大することから、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。ただし、国内の食肉需要は堅調なものの、伸びが鈍化しており、中国国家统计局（2025.1.17）によれば、2024 年の食肉生産量は 9,663 万トンと、前年比で 0.2%増。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、ブラジルからの輸入量の減少を受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、国内価格の下落等を受けた政策により、外国産ではなく豊作の国内産の備蓄向け購入を増加させていることから前年度より 65.8%減の 8.0 百万トンとなる見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～12 月の輸入量は、国内産とうもろこし及び代替品の価格低下等を受けて前年同期比 49.2%減の 1,377.5 万トンの見込み。内訳は、ブラジル 646.6 万トン（46.9%）、ウクライナ 465.3 万トン（33.8%）、米国 207.2 万トン（15.0%）の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年 1 月号」によれば、1 月の国内価格は 2,016 元/トンと、前月（2,014 元/トン）からわずかに上昇した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、輸入量の減少を受けて前年度より 4.8%減の 201.2 百万トンの見込み。

とうもろこし—中国

（春とうもろこしは、概ね 2～4 月に作付けされ、7～9 月に収穫される。
夏とうもろこしは、概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25（24年10月～25年9月）			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	277.2	288.8	294.9 (294.9)	-	2.1	
消 費 量	299.0	307.0	313.0 (314.7)	-	2.0	
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (212.0)	-	2.7	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	18.7	23.4	8.0 (9.0)	▲ 2.0	▲ 65.8	
期末在庫量	206.0	211.3	201.2 (184.2)	▲ 2.0	▲ 4.8	
期末在庫率	68.9%	68.8%	64.3% (58.5%)	▲ 0.6	▲ 4.6	

(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.74 (44.74)	-	1.2	
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.59 (6.59)	-	0.9	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC 「Grain Market Report」(20 February 2025)

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)								
2022年 1 月～12 月			2023年 1 月～12 月			2024年 1 月～12 月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
米国	1,486.5	72.1	ブラジル	1,280.6	47.2	ブラジル	646.6	46.9
ウクライナ	526.4	25.5	米国	714.4	26.3	ウクライナ	465.3	33.8
ミャンマー	19.4	0.9	ウクライナ	551.8	20.3	米国	207.2	15.0
ブルガリア	14.7	0.7	ブルガリア	73.9	2.7	ミャンマー	17.8	1.3
ロシア	9.5	0.5	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	15.5	1.1
ラオス	5.1	0.2	ロシア	29.4	1.1	ラオス	7.7	0.6
その他	0.2	0.0	その他	24.5	0.9	その他	17.3	1.3
計	2,061.8	100	計	2,712.7	100	計	1,377.5	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比  前月比 

・豪州、ウクライナで下方修正され、前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

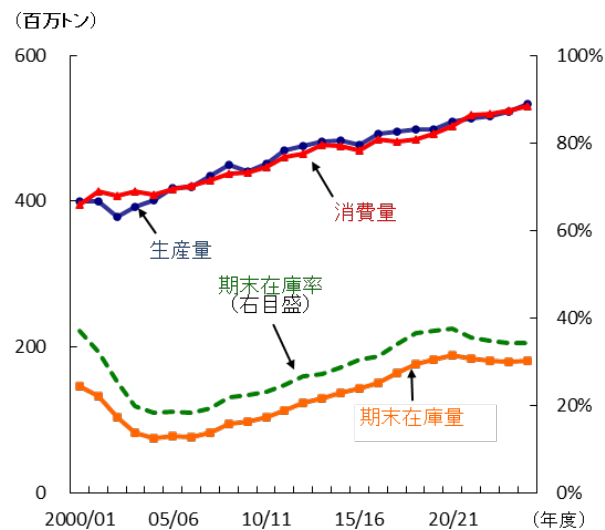
消費量 前年度比  前月比 

・インドネシア等で下方修正されたものの、ネパール、バングラデシュ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・エジプト、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」（2025. 3. 11）をもとに農林水産省にて作成

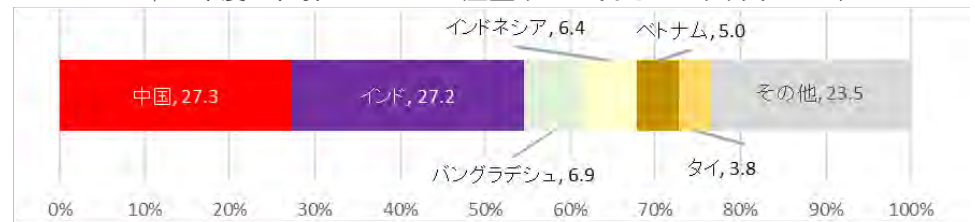
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

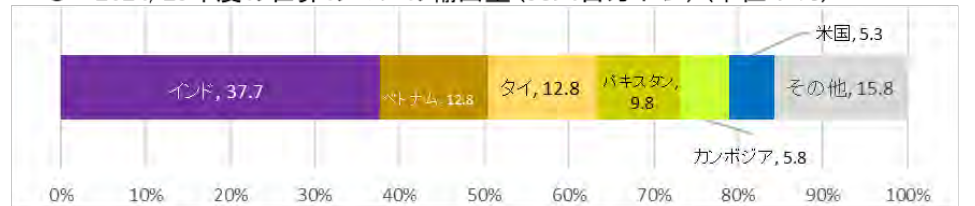
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	516.7	522.3	532.7	▲ 0.01	2.0
消 費 量	520.2	523.5	530.7	0.2	1.4
輸 出 量	55.1	56.9	58.4	0.1	2.7
輸 入 量	57.3	53.5	55.1	0.3	3.1
期末在庫量	180.7	179.6	181.5	▲ 0.1	1.1
期末在庫率	34.7%	34.3%	34.2%	▲ 0.03	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 March 2025)

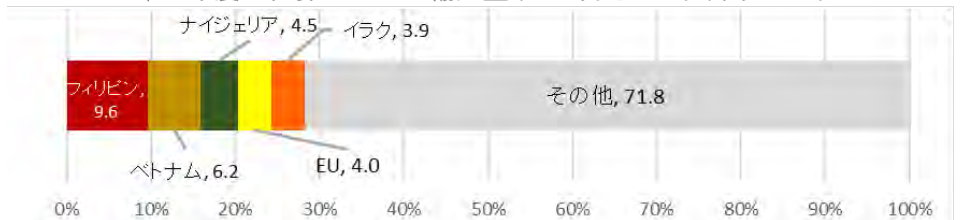
○ 2024/25年度の世界のコメの生産量(532.7百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸出量(58.4百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸入量(55.1百万トン)(単位：%)



(2) 国別のコメの需給動向

< タイ > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測から変更はなく、灌漑設備の改善による水供給量の増加に伴う作付面積の拡大及び単収の向上により、20.1 百万トンと、前年度に比べ 0.5%増加する見込み。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」(2025.2)によれば、2024/25 年度の雨季米(2024 年 5 月～10 月作付け)の実生産量は、良好な天候から、前年度に比べ 0.3%増の 27.0 百万トン(籾ベース)の見込み。作付面積は、前年度の 994 万ヘクタールから 992 万ヘクタールに減少する見込み。コメの市場価格が高いことから作付面積を増加させる生産者がいる一方、天候への懸念から乾燥に強いキャッサバや市場価格が高騰しているサトウキビへの作付けのシフトも行われている。なお、雨季米の収穫は 1 月に終了している。

2024/25 年度の乾季米(2024 年 11 月～2025 年 4 月作付け)の作付面積は、雨季中の降雨量が多く、十分な灌漑用水を供給できることから、前年度(163 万ヘクタール)から 19%増の 192 万ヘクタールと予測されている。乾季米の栽培が盛んな中部地方を中心に作付けが進んでいる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、インドネシア政府の輸入減の見通しを受け、前年度から 24.2%減少し、7.5 百万トンの見込み。

タイ政府及びタイ米輸出業者協会の共同予測によれば、2024/25 年度の輸出量は、インド政府による輸出規制撤廃による国際市場における競争激化及び、これまでタイ米の主要輸入国であったインドネシアの十分な在庫量及び国内生産の増加から大幅に減少すると予測している。

タイ関税局によれば、2025 年 1 月の輸出量は、前年同期比 33%減の 64 万トンで、主な輸出先国は、イラク 10.5 万トン(国別シェア 16.0%)、米国 9.1 万トン(同 14.2%)、セネガル 5.2 万トン(同 8.2%)。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシア向けの輸出量は、0.8 万トンと大幅に減少し、前年同期比で 97%減となった。

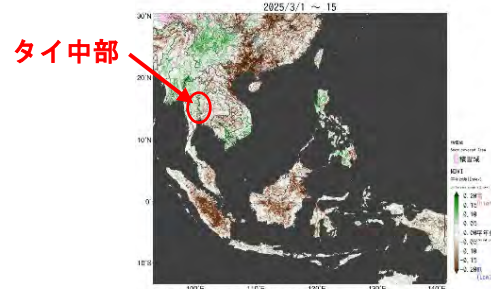
コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位：百万精米トン)					
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25（25年1月～25年12月）		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.9	20.0	20.1 (20.1)	-	0.5
消 費 量	12.3	12.3	12.3 (12.4)	-	-
輸 出 量	8.7	9.9	7.5 (7.6)	-	▲ 24.2
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.0)	-	-
期末在庫量	4.4	2.3	2.7 (2.5)	-	17.7
期末在庫率	20.7%	10.2%	13.4% (12.6%)	-	3.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70 (10.70)	-	0.5
単収(籾t/ha)	2.86	2.85	2.85 (1.88)	-	-

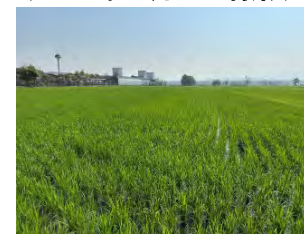
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC「Grain Market Report」(20 February 2025) (単収は精米t/ha)

図 タイ中部 植生指標 (NDVI) (平年対差) (2025. 3. 1～3. 15)



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム (JASMAI)

写真 北部チェンライ県 圃場風景 (2025 年 3 月 6 日撮影)



乾季米の作付け後の圃場

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測から変更はなく、7.1 百万トンと、長粒種の収穫面積、単収増により、前年度に比べ 1.9%増加し、2020/21 年度以降最高となる見込み。種類別生産量は、前月予測から変更はなく、長粒種は、収穫面積、単収ともに増加し、前年度より 12%増の 5.5 百万トンとなる見込み。一方、中・短粒種は、南部の生産州及びカリフォルニア州における作付面積の減少を受け 1.6 百万トンと前年度より 22%減少する見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測から 0.03 百万トン上方修正され、前年度に比べ 7.0%増の 1.5 百万トンと史上最高の見込み。

前月予測からの引き上げは、長粒種によるもので、タイからのジャスミン米とインドからのバスマティ米の輸入ペースが好調なことによる。

2024/25 年度の輸出量は 3.1 百万トンと、北東アジア向けの中・短粒米の販売が好調であったことから、前月予測から 0.03 百万トン上方修正されたものの、前年度に比べ 1.3%減少する見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」(2025.3.11)によれば、米国産長粒種の FOB 価格は、中南米向けの販売減少により、前月から 19 ドル/トン下落し、3 月 7 日現在、678 ドル/トン。ウルグアイ産米は、新米の収穫を受け、前月から 56 ドル/トン下落し、3 月 7 日現在、612 ドル/トン。米国産に対し価格競争力を有している（ベトナムの「図 長粒種の FOB 価格の推移」参照。）。

同「Exports Sales Query System」(2025.3)によれば、2024/25 年度（2024 年 8 月～2025 年 2 月）の輸出量は 155.7 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 37.0 万トン（国別シェア 25.4%）、ハイチ 17.0 万トン（同 11.6%）、日本 12.2 万トン（同 8.4%）の順。種類別には、長粒種は、輸出量 125.5 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 42.8 万トン（国別シェア 34.1%）、ハイチ 18.6 万トン（同 14.8%）、イラク 8.8 万トン（同 7.0%）。中・短粒種は、輸出量 30.2 万トンで、主な輸出先国は、日本 15.2 万トン（国別シェア 50.3%）、韓国 6.7 万トン（同 22.2%）、メキシコ 3.4 万トン（同 11.3%）。2024/25 年度の期末在庫量は、前年度に比べ 17.3%増加し、1.5 百万トンの見込み。

コメー米国

長粒種の生産量が 75%を占め、中・短粒種の生産量は 25%、その内カリフォルニア州での栽培が 20%

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 8 月～25年 7 月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	5.1	6.9	7.1	-	1.9
消 費 量	4.6	4.9	5.3	-	7.1
輸 出 量	2.1	3.1	3.1	0.03	▲ 1.3
輸 入 量	1.3	1.4	1.5	0.03	7.0
期末在庫量	1.0	1.3	1.5	-	17.3
期末在庫率	14.4%	15.8%	17.8%	▲ 0.1	2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.16	-	-
単収(粍t/ha)	8.28	8.56	8.69	-	1.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)

図 米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料：USDA「Rice Outlook」(2025.2.13)をもとに農林水産省で作成。
価格は年度内の平均価格

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、政府の最低支持価格の上昇により、収穫面積が増加（前年度比 0.2%増）することから、前年度比 0.5%増の 145.3 百万トン（精米ベース）となる見込み。

中国農業農村部「2025 年南部早稲生産技術に関する指針」（2025.3.5）によれば、南部（華南、華中、西南高原）では、早稲の作付作業が南から北へ順次進められている。2 月中旬以降、江南地方（上海市、江蘇省南部、安徽省、浙江省北部、江西省、福建省一部地域）では、5～6 日間にわたり降雨が続いた。中国気象当局予報では、南部稲作地域では、春の気温が平年並みからやや高めとなる見込みであるが、寒気の影響も生じるとのこと。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から変更はなく、145.9 百万トンとなる見込み。飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い食用需要が減少することから、前年度比で 1.5%減少する見込み。なお、消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少している。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、世界のコメ価格の下落を受け、ベトナム、ミャンマー、パキスタン、タイ、カンボジアといった伝統的なインディカ米の供給国からの輸入が増加するとの予測から、前年度比 37.3%増の 2.1 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、12 月の輸入量は、前月に比べ 20.33 万トン増加し、37.48 万トン（前月比 118.54%増）。内訳は、タイ 11.57 万トン（国別シェア 30.9%）、ミャンマー10.32 万トン（同 27.5%）、パキスタン 6.72 万トン（同 17.9%）の順。

USDA によれば、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っているものの、軟調な需要に基づく輸出が継続すると予測されることから、2024/25 年度の実輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比 38.7%減の 1.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、103.5 百万トンと前年度に比べ 0.5%増の見込み。

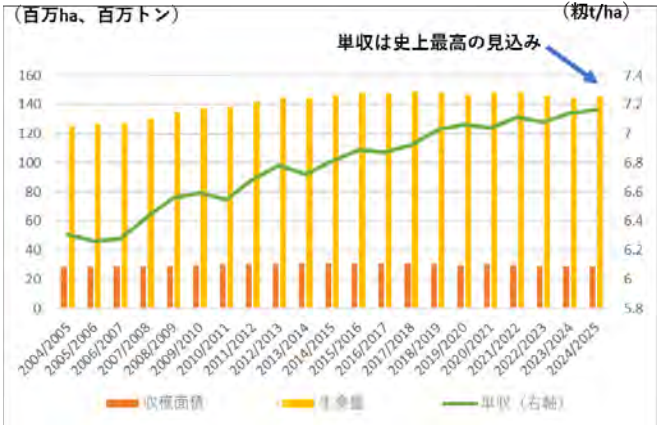
コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	146.0	144.6	145.3 (145.3)	-	0.5
消 費 量	155.0	148.1	145.9 (145.5)	-	▲ 1.5
輸 出 量	1.7	1.6	1.0 (1.6)	-	▲ 38.7
輸 入 量	4.4	1.5	2.1 (2.4)	-	37.3
期末在庫量	106.6	103.0	103.5 (101.8)	-	0.5
期末在庫率	68.0%	68.8%	70.5% (69.2%)	-	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.01 (29.01)	-	0.2
単収(kg/ha)	7.08	7.14	7.15 (5.01)	-	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)、
IGC「Grain Market Report」(20 February 2025)（単収は精米t/ha）

図 中国の実産量、収穫面積、単収の推移
(2004/05～2024/25 年度)



資料：USDA「PS&D」(2025. 3. 11)をもとに農林水産省にて作成

< インド > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 5.2%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測から変更はなく、145.0 百万トンと、前年度比で 5.2%増加、過去 5 年平均（134.5 百万トン）と比べ 7.8%増加し、史上最高の見込み。収穫面積は、50.0 百万ヘクタールと前年度に比べ 4.5%増加し史上最高となる見込み。単収も 4.35 トン/ヘクタールと、前年度（4.32 トン/ヘクタール）と比べ 0.7%増と史上最高となる見込み。

インド農業・農民福祉省によると、2024/25 年度の南部・東部・北東部の平原におけるラビ米（乾季米）の作付けはほぼ完了し、2 月 4 日時点で、前年度（40.59 百万ヘクタール）から 4.8%増加し、42.54 百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から変更はなく、旺盛な国内需要から前年度比 4.0%増の 121.0 百万トンとなる見込み。なお、国民の食料安全保障を確保するため、食料安全保障法に基づき、公的食料配給制度（PDS）が実施されており、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。

2024/25 年度の輸出量は、先月予測から変更はなく、インド政府の輸出規制撤廃等を受け、アフリカ及び中東向け輸出が増加するとの予測から、前年度比 52.5%増の 22.0 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持し、世界全体のコメ輸出総量の約 38%を占める。

インド輸出入統計によれば、2024 年 12 月の輸出量は 252.5 万トンで、主な輸出先国は、ベナン 28.2 万トン（国別シェア 11.1%）、カメルーン 13.8 万トン（同 5.5%）、サウジアラビア 13.6 万トン（同 5.4%）の順。ベナン等のアフリカ諸国向けは非バスマティ米の輸出が主である。インド政府は、2022 年 9 月 9 日以降、碎米の輸出禁止や輸出関税・最低輸出価格の設定等の措置を発動・強化してきたが、史上最高の増産予測及び農家・輸出者からの要請を受け、2024 年 9 月 14 日に、バスマティ米の最低輸出価格の撤廃、9 月 27 日に、粳米、玄米、パーボイルド米の輸出関税を 20%から 10%へ引き下げ、10 月 23 日に、非バスマティ米の輸出禁止措置の撤廃を発表し、更に 2025 年 3 月 7 日に、禁止していた碎米の輸出再開を発表した。インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、2025 年 2 月時点の期末在庫量は、34.01 百万トン（精米）と前年に比べ 62%増の見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。中部・西部・北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部・東部・北東部の平原はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位：百万精米トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年 9 月)			
			予 測 値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	135.8	137.8	145.0 (144.5)	-	5.2	
消 費 量	114.5	116.4	121.0 (121.0)	-	4.0	
輸 出 量	20.3	14.4	22.0 (21.9)	-	52.5	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	35.0	42.0	44.0 (43.3)	-	4.8	
期末在庫率	26.0%	32.1%	30.8% (30.3%)	-	▲ 1.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	47.83	47.83	50.00 (50.00)	-	4.5	
単収(粳t/ha)	4.26	4.32	4.35 (2.89)	-	0.7	
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(11 March 2025)、 IGC「Grain Market Report」(20 February 2025)（単収は精米t/ha）						

表 インドのコメ輸出規制の変遷及び対象品目別輸出シェア

対象品目	措置内容							2024年 輸出シェア (%)
	2022/9/9	2023/7/20	2023/8/25	2024/9/14	2024/09/ 27・28	2024/10/23	2025/3/7	
全ての種類の コメの精米	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (10%)	輸出税 (10%)	輸出税 (10%)	1.99
全ての種類の コメの玄米	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (10%)	輸出税 (10%)	輸出税 (10%)	2.31
バスマティ米の 精米	12,000ル ピー/トン (日本円で約2 万円/トン)	12,000ルピー /トン	12,000ルピー/ トン 最低輸出価格 1,200ドル/トン	12,000ル ピー/トン	12,000ル ピー/トン	12,000ルピー/ トン	12,000ル ピー/トン	32.92
パーボイルド米 の精米	無税	無税	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (10%)	輸出税 (10%)	輸出税 (10%)	45.25
バスマティ米・ パーボイルド米 以外の精米	輸出税 (20%)	輸出禁止	輸出禁止	輸出禁止	無税 最低輸出価格 490ドル/トン	無税	無税	13.31
碎米	輸出禁止	輸出禁止	輸出禁止	輸出禁止	輸出禁止	輸出禁止	輸出再開	4.22

※赤字は規制強化、青字は規制緩和
※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可
※有機米は本措置の対象外
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.8%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく 26.5 百万トンと、前年度を 0.8%上回る見込み。2016/17 年度以降、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流量減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）へのシフト等から、作付面積は減少傾向にあったが、2024/25 年度の収穫面積は 6.95 百万ヘクタールと前年度に比べ 0.7%増加する見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2025.3）によると、紅河デルタ地域（北部）では、乾季米（冬春作）が作付け及び生育期にあり、温暖な天候と灌漑整備が進み、総作付面積は 1.05 百万ヘクタールとなっている。メコンデルタ地域（南部）では、乾季米（冬春作）の収穫が開始されており、収穫面積は作付面積 1.90 百万ヘクタールのうち 40 万ヘクタールに達し、単収は 7.1 トン/ヘクタールと前年と同水準となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測から変更はなく、前年度に比べ 10.5%減の 3.4 百万トンとなる見込み。ベトナムのコメ輸入の大部分をカンボジアが占めており、カンボジアで精米されたほとんどがベトナム向けに出荷され、残りはインドから輸入している。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、インドネシア政府調達の減少及び世界第 1 位のコメ輸出国であるインドが非バスマティ米の輸出規制撤廃等を実施したことによる同国との競争激化が予想され、前年度から 17.0%減少し、7.5 百万トンとなる見込み。

ベトナム税関総局によれば、2025 年 1 月～2 月の輸出量は 123.0 万トンと、前年同期（104.6 万トン）に比べ 17.6%増加した。主な輸出先国は、フィリピン 54.7 万トン（国別シェア 44.5%）、コートジボアール 21.3 万トン（同 17.3%）、ガーナ 11.2 万トン（同 9.1%）、中国 7.3 万トン（同 5.9%）の順。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.3.11）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の 3 月 7 日までの週の価格は、インドネシア向けの需要低迷を反映し、前月 2 月 7 日までの週から 7 ドル/トン下落し、387 ドル/トンとなった。

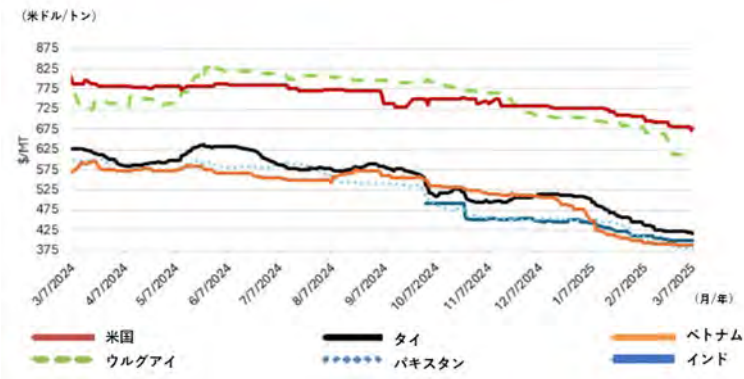
コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位：百万精米トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年 1 月～25年12月)			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	27.1	26.3	26.5	(28.6)	-	0.8
消 費 量	22.4	22.4	22.4	(22.5)	-	-
輸 出 量	8.2	9.0	7.5	(7.5)	-	▲ 17.0
輸 入 量	3.3	3.8	3.4	(2.2)	-	▲ 10.5
期末在庫量	3.4	2.0	2.0	(2.9)	-	-
期末在庫率	11.0%	6.5%	6.8%	(9.6%)	-	0.3
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.12	6.90	6.95	(7.12)	-	0.7
単収(粍t/ha)	6.10	6.10	6.10	(4.02)	-	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC「Grain Market Report」(20 February 2025)（単収は精米t/ha）

図 長粒種の FOB 価格の推移（2024 年 3 月 7 日～2025 年 3 月 7 日）



資料：USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.3.11）より

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 —

・ウクライナ、メキシコ、豪州で上方修正されたものの、南アフリカで下方修正され、全体として前月からの変更はなく、史上最高の見込み。

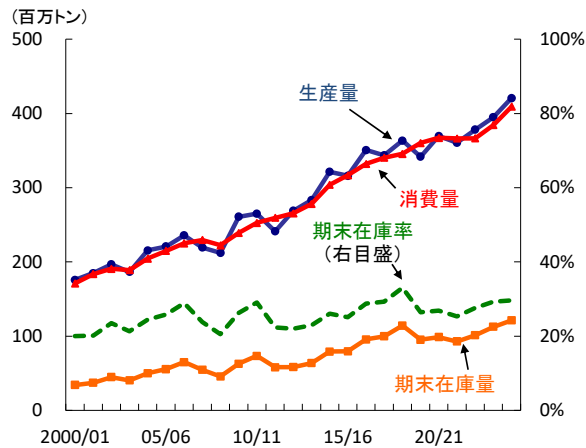
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・イラン等で下方修正されたものの、中国、アルゼンチン、タイ、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正され、史上最高の見込み。

輸出货量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・カナダ、豪州で上方修正されたものの、南アフリカで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2025. 3. 11)をもとに農林水産省で作成

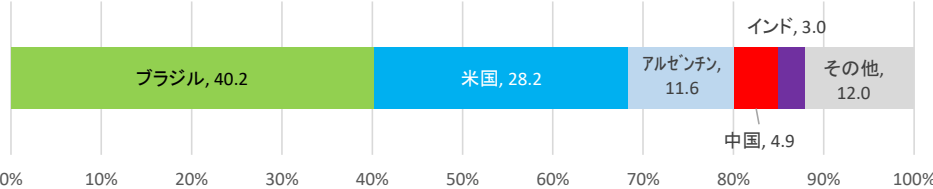
◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

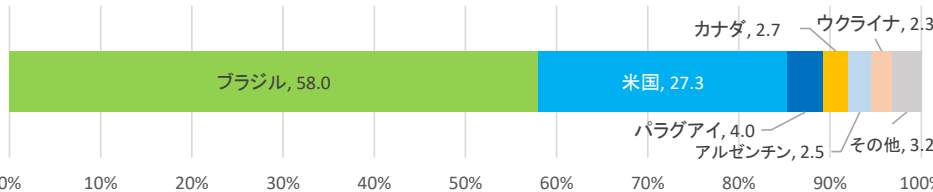
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	378.2	395.0	420.8	—	6.5
消費量	366.7	384.4	409.2	3.0	6.4
うち搾油用	315.6	331.3	352.8	2.9	6.5
輸 出 量	171.8	177.5	182.0	▲ 0.03	2.5
輸 入 量	168.6	178.3	179.2	▲ 0.04	0.5
期末在庫量	101.2	112.6	121.4	▲ 2.9	7.9
期末在庫率	27.6%	29.3%	29.7%	▲ 0.9	0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 March 2025)

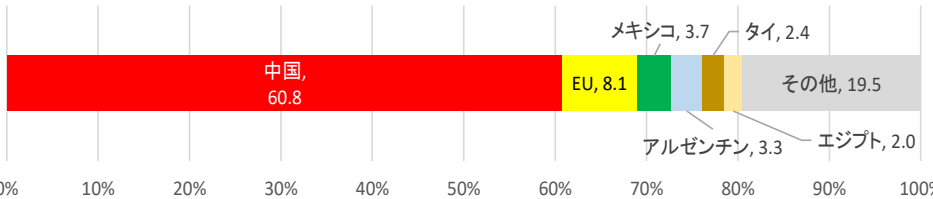
○ 2024/25 年度の世界の大豆の生産量(420.8 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸出货量(182.0 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸入量(179.2 百万トン) (単位：%)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 4.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 4.9%増の 118.8 百万トンと史上４番目の見通し。作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からわずかに下方修正されたものの、大豆油等の需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 4.7%増の 68.7 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 7.7%増の 49.7 百万トンの見込み。

USDA によれば、2024 年 9 月～2025 年 2 月の輸出量は 3,771.5 万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の 3,429.7 万トンより 10.0%増。内訳は中国 1,972.2 万トン（国別シェア 52.3%）、メキシコ 279.5 万トン（同 7.4%）、エジプト 203.8 万トン（同 5.4%）の順となっている。

2025 年 2 月 4 日、米国政府は、中国からの全輸入品に 10%の追加関税を発効し、3 月 4 日から更に 10%追加し、合わせて 20%の追加関税を課した。それに対し、2025 年 3 月 4 日、中国国務院関税税則委員会は、米国産農水産物の輸入に関し追加関税を賦課すると発表した。大豆について 10%の追加関税が賦課され 3 月 10 日から適用される。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より 10.9%増の 10.3 百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前月予測からの変更はなく、8.7%と、前年度（8.3%）、過去 5 年平均（8.0%）を上回っている。

大豆－米国

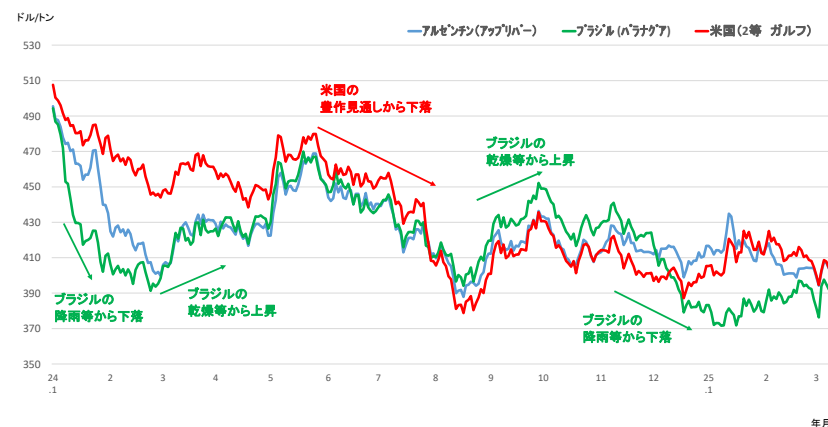
（概ね 5～6 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 9 月～25年 8 月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	116.2	113.3	118.8	－	4.9
消費量	63.3	65.6	68.7	▲ 0.01	4.7
うち搾油用	60.2	62.2	65.6	－	5.5
輸出量	53.9	46.1	49.7	－	7.7
輸入量	0.7	0.6	0.5	－	▲ 5.3
期末在庫量	7.2	9.3	10.3	－	10.9
期末在庫率	6.1%	8.3%	8.7%	－	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.87	33.29	34.82	－	4.6
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.41	－	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)

図 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 10.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高（対前年度比 2.8%増）となり、主要生産地の中西部で生育期を通じて天候に恵まれ単収も増加（同 7.5%増）する見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。

CONAB の月例報告（2025.3.13）によれば、2024/25 年度の実産量は、とうもろこしから収益性が高い大豆に作付けがシフトすること等による作付面積の増加（対前年度比 2.8%増）及び単収の増加（同 10.2%増）から前年度より 13.3%増の 167.4 百万トンの見通し。2 月末現在、収穫進捗率は 48%と、2 月の降雨量の減少による収穫作業の急速な進展を受けて前年同期（47%）を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費の増加を受けて前年度より 2.6%増の 60.1 百万トンと史上最高の見込み。

「OIL WORLD Monthly」（2025.2.21）によれば、ブラジル政府は、バイオディーゼル混合基準について、2025 年 3 月に予定されていた、現行の 14%から 15%への引上げを取りやめた。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国からの引き続き堅調な需要等により、前年度から 1.3%増の 105.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2023/24 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 2 月の輸出量は 1,676.6 万トンで、豊作の 2022/23 年度からの減産を受けて前年同期（2,408.7 万トン）に比べ 30.4%減。輸出先は、中国 1,288.7 万トン（国別シェア 76.9%）、タイ 126.2 万トン（同 7.5%）、イラク 56.6 万トン（同 3.4%）の順。

「OIL WORLD Monthly」（2025.2.21）、「OIL WORLD Weekly」（2025.2.28）によれば、2 月下旬現在、収穫遅延により開始が遅れていた 2024/25 年度の実産量が本格化しているとみられる。3 月から 5 月にかけて、内陸輸送の物流が輸出のボトルネックにならないか注視する必要がある。

大豆－ブラジル

（概ね 9～12 月に作付けされ、1～4 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
			予測値、()	はCONAB		
生 産 量	162.0	153.0	169.0	(167.4)	-	10.5
消 費 量	57.2	58.6	60.1	(60.7)	-	2.6
うち搾油用	53.4	54.7	56.0	...	-	2.4
輸 出 量	95.5	104.2	105.5	(105.7)	-	1.3
輸 入 量	0.2	0.9	0.2	(0.5)	-	▲ 82.8
期末在庫量	36.8	28.0	31.5	(2.2)	-	12.7
期末在庫率	24.1%	17.2%	19.0%	(1.3%)	-	1.8
(参考)						
収穫面積(百万ha)	44.60	46.10	47.40	(47.45)	-	2.8
単収(t/ha)	3.63	3.32	3.57	(3.53)	-	7.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
CONAB「Graos」(13 March 2025)

写真 南部パラナ州の実産の収穫風景
(2025 年 3 月 3 日撮影)



撮影者：Thiago Terabe

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 8.4%増加する見込み（AAFC）

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2025.3.21）によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、主要生産地で収穫面積が増加するとともに、良好な天候を受け単収が増加したこと等により、前年度（7.0 百万トン）から 8.4%増の 7.6 百万トンの見込み。米国コーンベルトに隣接する最大生産州オンタリオ州の実産量は前年度から 8 %増の 4.4 百万トンの見込み。

カナダ統計局「Principal field crop areas, 2025」によれば、2025/26 年度の作付意向面積は、前年度から 1.3%減の 227 万ヘクタールの見込み。州別には、オンタリオ州では前年度より 7.8%増の 117 万ヘクタールと増加するものの、ケベック州では前年度より 4.9%減の 40 万ヘクタール、マニトバ州では前年度から 14.1%減の 65 万ヘクタールと減少する見込み。AAFC によれば、2025/26 年度の作付面積は、大豆価格の低下を受けて農家が他作物に作付けをシフトさせることが見込まれることから、2024/25 年度から減少するとみられる。

【需要状況】AAFC によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用等の需要増により前年度（2.2 百万トン）から 11.6%増の 2.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給増を受けて前年度（4.9 百万トン）より 11.9%増、過去 5 年平均（4.3 百万トン）より 27.0%増の 5.5 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会によれば、2024/25 年度（2024 年 8 月～2025 年 1 月）の輸出量は 333.9 万トンで、前年同期（302.0 万トン）に比べ 10.6%増。国別では、中国 88.7 万トン（国別シェア 26.6%）、イラン 78.0 万トン（同 23.4%）、アルジェリア 43.8 万トン（同 13.1%）の順となっている。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度から 4.2%増の 0.6 百万トンの見込み。

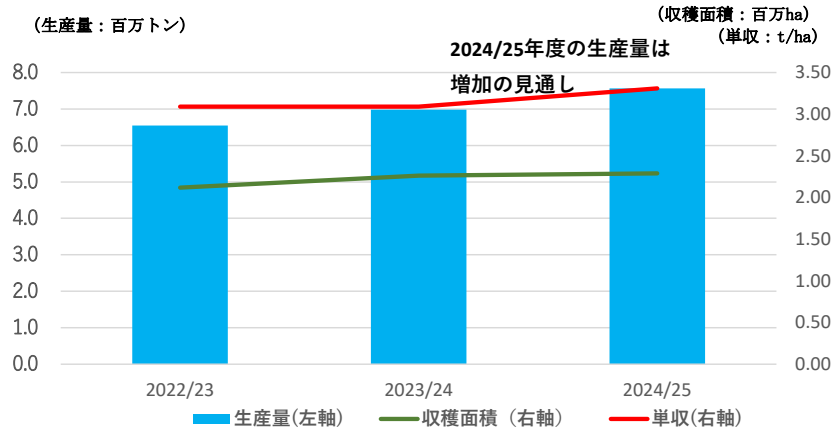
大豆－カナダ

（概ね 5 ～ 6 月に作付けされ、9 ～ 11 月に収穫される。）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25（24年8月～25年7月）		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.5	7.0	7.6 (7.6)	-	8.4
消 費 量	2.7	2.3	2.7 (2.5)	▲ 0.2	18.5
うち搾油用	1.8	1.7	1.6 (1.9)	▲ 0.2	▲ 3.1
輸 出 量	4.2	4.8	5.0 (5.5)	0.2	3.2
輸 入 量	0.5	0.3	0.4 (0.4)	-	4.5
期末在庫量	0.4	0.6	0.8 (0.6)	▲ 0.05	38.7
期末在庫率	5.3%	7.9%	10.1% (7.2%)	▲ 0.7	2.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.29 (2.29)	-	1.3
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.30 (3.31)	-	6.8

資料：USDA「PS&D」、
「World Agricultural Production」（11 March 2025）
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（21 March 2025）

図 カナダの直近 3 年間の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2025.3.21）をもとに
農林水産省にて作成

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、史上最高の前年度から 0.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少を受けて前年度より 0.9%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目に高い見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024 年の生産量は、前年から 0.9%減の 20.7 百万トンとなる見込み。単収は 2.00 トン/ヘクタールと前年から 0.5%増加したものの、作付面積は 10.34 百万ヘクタールと前年より 1.4%減少することによる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、搾油用消費の引上げを受けて前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、国内の畜産物の需要増を受けて大豆粕の需要が増加することから、前年度より 5.8%増の 128.9 百万トンと史上最高の見込み。ただし、国内の食肉需要は堅調なものの、伸びが鈍化しており、中国国家统计局（2025.1.17）によれば、2024 年の食肉生産量は 9,663 万トンと、前年比で 0.2%増。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度より 2.7%減の 109.0 百万トンとなるも、引き続き高水準を維持する見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～12 月の輸入量は、前年同期より 6.5%増の 10,503.5 万トン。内訳は、ブラジル 7,465.0 万トン（71.1%）、米国 2,213.4 万トン（21.1%）、アルゼンチン 410.2 万トン（3.9%）の順。12 月の米国からの輸入量は 425.4 万トンと、前月比で 52.4%増、前年同月比で 10.5%増となった。これは、ブラジル産大豆の端境期に当たり、米国産の輸入を増やしたためとみられる。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年 1 月号」によれば、1 月の国内価格は 4,300 元/トンと、2024 年 11 月から横ばいで推移している。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、消費量の引上げを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正されたものの、生産量と輸入量の合計が消費量を上回っていることを受けて、前年度より 1.5%増の 44.0 百万トンと史上最高の見込み。

大豆－中国

（概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。）

（単位：百万トン）						
年 度	2022/23	2023/24 （見込み）	2024/25（24年10月～25年9月）			
			予測値、（）はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率（%）	
生 産 量	20.3	20.8	20.7（20.7）	-	▲ 0.9	
消 費 量	117.5	121.8	128.9（127.8）	2.0	5.8	
うち搾油用	96.0	99.0	105.0（105.8）	2.0	6.1	
輸 出 量	0.1	0.1	0.1（0.1）	-	42.9	
輸 入 量	104.5	112.0	109.0（109.0）	-	▲ 2.7	
期末在庫量	32.3	43.3	44.0（48.8）	▲ 2.0	1.5	
期末在庫率	27.5%	35.5%	34.1%（38.2%）	▲ 2.1	▲ 1.5	
（参考）						
収穫面積（百万ha）	10.24	10.47	10.33（10.36）	-	▲ 1.3	
単収（t/ha）	1.98	1.99	2.00（1.99）	-	0.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（11 March 2025）
IGC「Grain Market Report」（20 February 2025）

表 中国の大豆輸入量と輸入先国

（輸入量：万トン、シェア：%）								
2022年 1 月～12 月			2023年 1 月～12 月			2024年 1 月～12 月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	5,439.3	61.0	ブラジル	6,993.0	70.7	ブラジル	7,465.0	71.1
米国	2,780.2	31.2	米国	2,374.3	24.0	米国	2,213.4	21.1
アルゼンチン	351.8	3.9	アルゼンチン	199.2	2.0	アルゼンチン	410.2	3.9
ウルグアイ	178.8	2.0	カナダ	146.6	1.5	ウルグアイ	145.3	1.4
カナダ	71.9	0.8	ロシア	129.3	1.3	カナダ	122.8	1.2
ロシア	69.4	0.8	南アフリカ	14.7	0.1	ウクライナ	61.5	0.6
その他	30.4	0.3	その他	38.6	0.4	その他	85.5	0.7
計	8,921.8	100.0	計	9,895.7	100.0	計	10,503.5	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.6%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.6%増の 49.0 百万トンの見込み。増産の主な要因は、大豆の収益性が高まっていることに加え、農家が病害虫のヨコバイによる被害懸念からとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせ収穫面積が減少したことによるとみられる。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2025.3.11)によれば、3月上旬、主要農業生産地域では、降雨を受けて、未成熟の作物の生育に好影響を与えた一方、既に成熟していた早植え作物の乾燥と収穫が遅れたとみられる。

アルゼンチン農牧漁業省 (MAGyp) の月報 (2025.2.20) によれば、遅植え大豆の作付作業は 2 月上旬に完了。早植え大豆は 2024 年 12 月～2025 年 1 月の高温乾燥の影響で単収が減少することが見込まれているものの、2 月の降雨を受けて多少改善されるとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、搾油用消費の引上げを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、増産に伴い搾油量が增加することから、前年度比 13.2%増の 49.6 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 23.0%減の 6.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の供給量の引上げによる競争の激化を受けて前年度より 11.9%減の 4.5 百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定していたが、2025 年 1 月 25 日、1 月 27 日～6 月 30 日まで一時的に大豆を 26%、大豆油及び大豆粕を 24.5%に引き下げると発表した。

大豆ーアルゼンチン

(早植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、3～7 月に収穫。
遅植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、4～7 月に収穫。)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	25.0	48.2	49.0 (48.0)	-	1.6	
消 費 量	36.6	43.8	49.6 (48.5)	1.0	13.2	
うち搾油用	30.3	36.6	42.0 (42.0)	1.0	14.8	
輸 出 量	4.2	5.1	4.5 (5.4)	-	▲ 11.9	
輸 入 量	9.1	7.8	6.0 (5.7)	-	▲ 23.0	
期末在庫量	17.0	24.1	25.0 (8.5)	▲ 1.0	3.7	
期末在庫率	41.7%	49.1%	46.1% (15.7%)	▲ 2.8	▲ 3.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	14.40	16.37	17.30 (17.33)	-	5.7	
単収(t/ha)	1.74	2.95	2.83 (2.77)	-	▲ 4.1	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC「Grain Market Report」(20 February 2025)

写真 北部サンタフェ州の大豆の圃場風景
(2025 年 2 月 24 日撮影)



本圃場では遅植え大豆の作付作業が 2024 年 11 月前半に行われ、現在は生殖成長期にある。2 月の降雨量は 261mm と多く、最高気温は 41.4℃ と高く、作物の生育に良好な条件となった。収穫作業は 4 月を予定。

撮影者：José Daniel Peloni

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2024/25年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

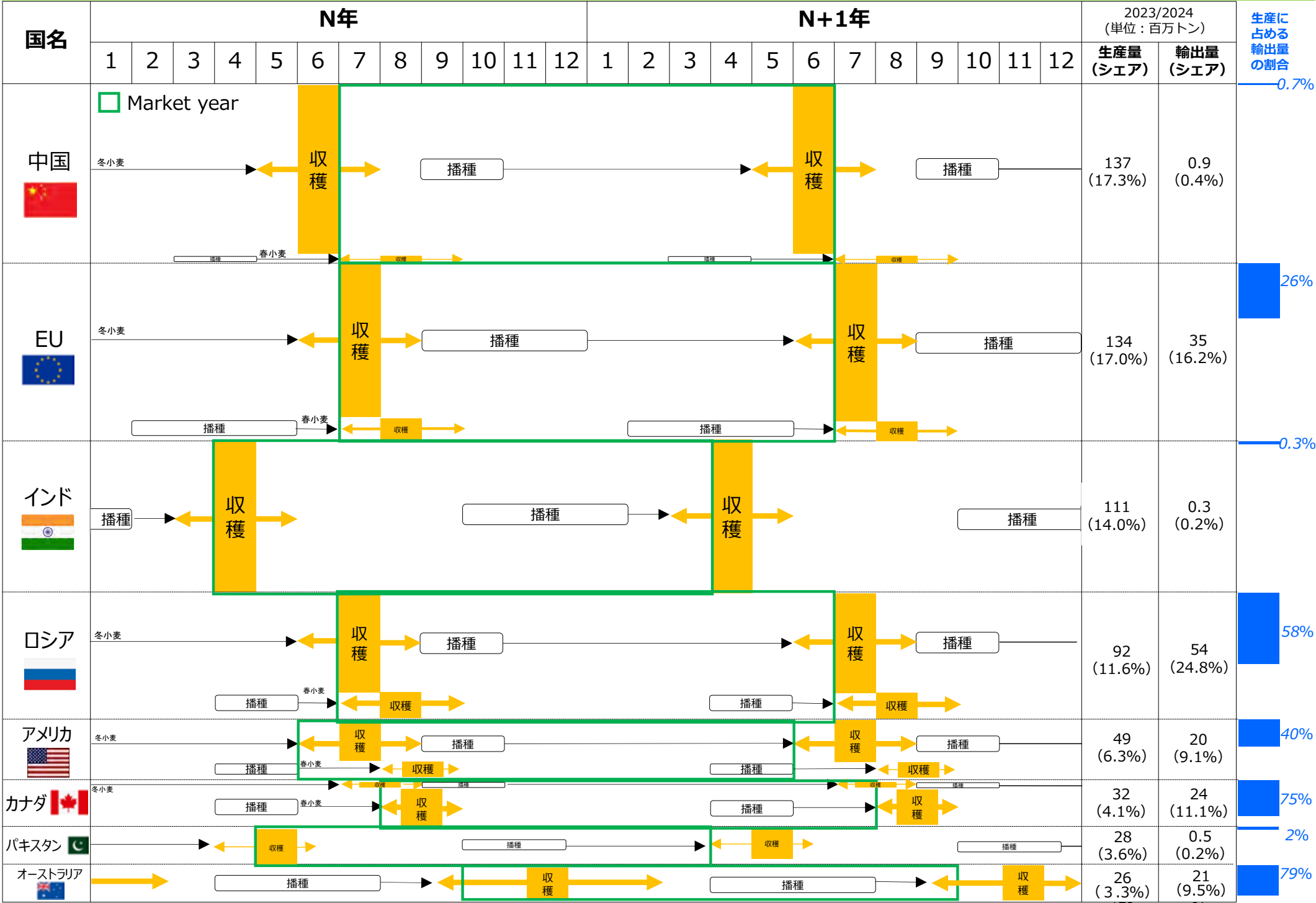
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



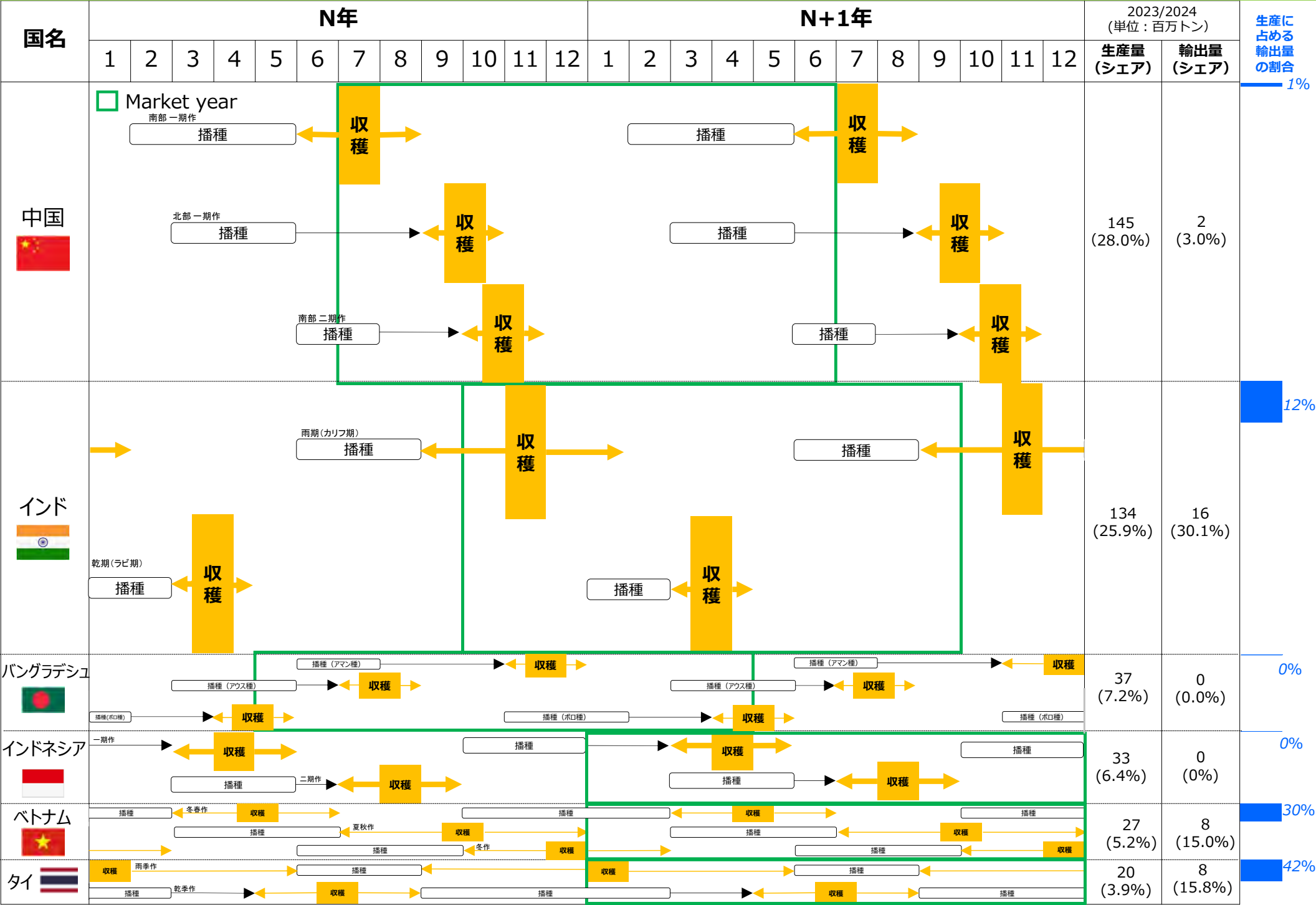
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他：

主要生産国のクロップカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendar」、「PS&D」(2024.5) 注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他：122 (23.5%) 19 (36.1%)

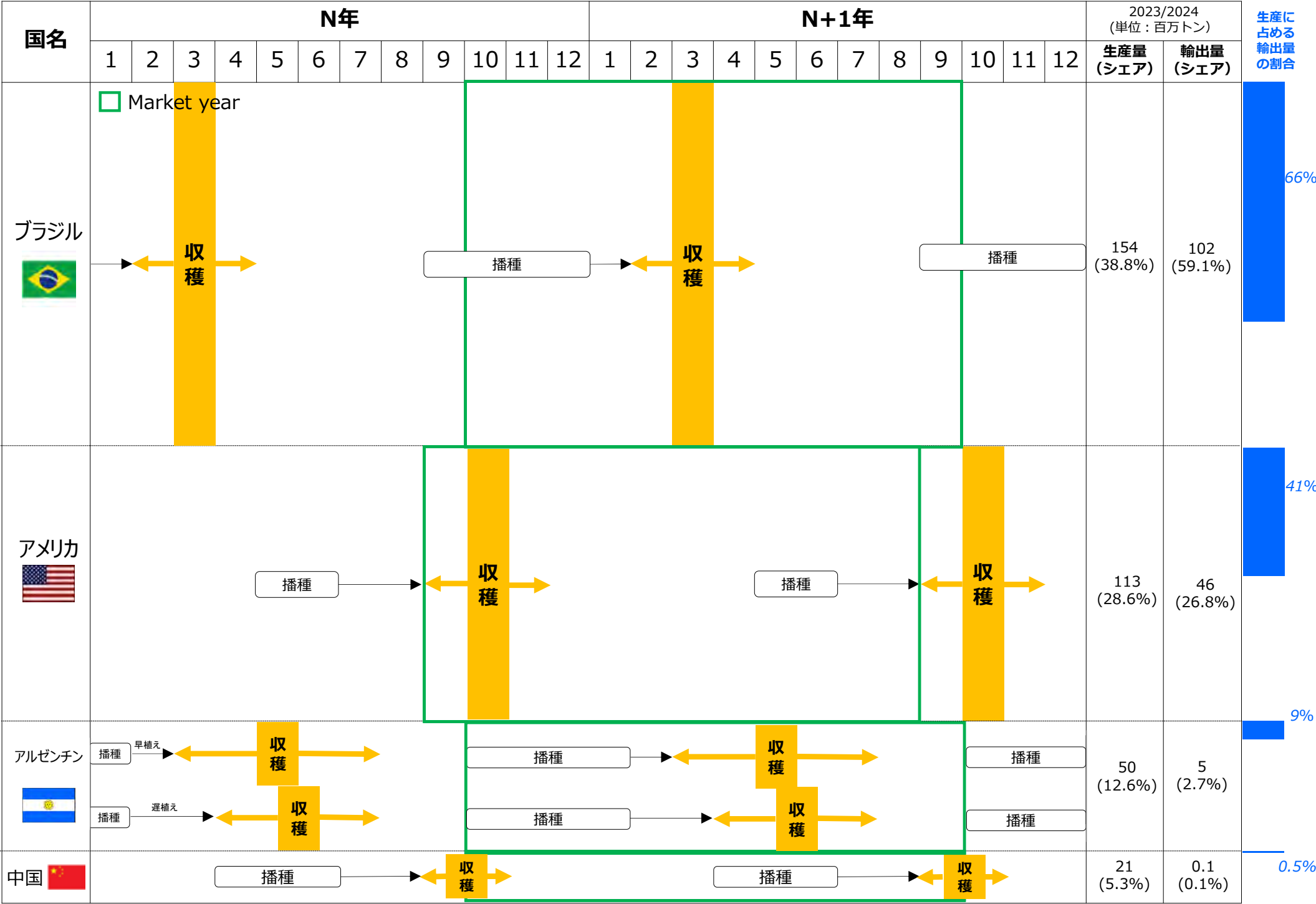
主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出品 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出品 (シェア)	
アメリカ 	□ Market year								播種 → 収穫												390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%				
中国 	播種 → 春作 → 収穫												播種 → 収穫												289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%
ブラジル 	夏とうもろこし → 播種 → 収穫												播種 → 収穫												122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%
EU 	播種 → 冬とうもろこし → 播種 → 収穫												播種 → 収穫												61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%
アルゼンチン 	播種 → 収穫												播種 → 収穫												53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%
インド 	乾期(ラビ期) → 播種 → 収穫												雨期(カリフ期) → 播種 → 収穫												38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%

主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」（2024.5）注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他：59 (14.8%) 20 (11.3%)

主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
EU 	Market year						収穫											収穫					20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%		
カナダ 							播種	収穫											播種	収穫					19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%
中国 	収穫												播種	収穫					播種			15 (17.4%)	0 (0%)	0%			
インド 	収穫												播種	収穫					播種			13 (14.1%)	0 (0%)	0%			
オーストラリア 	播種						収穫							播種	収穫					6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%					
ウクライナ 	収穫						播種											収穫	播種					4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%	
ロシア 	播種						収穫							播種	収穫					4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%					

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2025 年 3 月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度 2024/25 年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。



https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html